明治四十年六月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百十一號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治三十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百拾壹號目次

大日本婦人衛生會

七月例會通知

來る七月六日（第一土曜日）午後一時半より神田區一ッ橋通り女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一飲酒問題と婦人との關係　醫學博士　片山國嘉君

一身體及び其保護（續）　ドクトル　富士川游君

當日は本會總裁宮妃殿下の御臨場を仰き奉る筈に付き此段謹みて會員各位に告く

明治四十年六月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑もく＼衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相繼て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは實に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を置かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一同集合を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盛すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告け其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續は末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを認めたる節は役員の協贊に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推薦員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の

總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は事務の推[illegible]を要ず但書記は本會に於り會員外の婦人若くは男子に託[illegible]●第十二條　會長は本會を代理し副會長は會長を補佐し[illegible]は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務[illegible]役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一[illegible]出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の作●第[illegible]會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを[illegible]員を生するときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長[illegible]員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集[illegible]評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會[illegible]く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべ[illegible]員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條[illegible]ある人々に衛生上の講義演說談話を會若し會員をして屆[illegible]ものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦[illegible]誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得　但衣服は總て[illegible]●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條[illegible]他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て[illegible]並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條[illegible]本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條[illegible]總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條[illegible]に決算し毎年三月總會に報告すべし

支會

●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あ[illegible]を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第[illegible]にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記[illegible]後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報[illegible]員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付するこ[illegible]規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會[illegible]得●第廿八條　本會の雜誌は支會に同送すべきを以て其[illegible]本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する[illegible]同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告[illegible]三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配付す[illegible]會員又は會員外の者にして金圓若くは寄贈物品等を本[illegible]ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及[illegible]錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は[illegible]べしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納む[illegible]として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前[illegible]て本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便取扱所宛）[illegible]●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある[illegible]を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經[illegible]くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町入舟地　私立大日本婦人衛生會

◎役員姓名

東伏見宮依仁親王妃

總裁 周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
仝 羽田三耕子
仝 岡田德子
仝 高木かう子
仝 山本多穗子
仝 松平芳子
仝 三浦教子

評議員 石川貞子
仝 岩下ゆか子
仝 濱田捨子
仝 長谷川仲子
仝 仁禮壽賀子
仝 四升子
仝 穗積歌子
仝 土肥多越子
仝 緒方悅子
仝 岡山とし子
仝 小川孝子
仝 男爵夫人 加藤鈴子
仝 片山龜子
仝 吉武輝枝子
仝 丹波貞子
仝 高橋季子
仝 田村きよ子
仝 男爵夫人 南部設子
仝 中濱芳子

評議員 子爵夫人 山口貞子
仝 松井正子
仝 岸近子
仝 三宅藤子
仝 宮木榮子
仝 宮下暎子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士 ●入澤達吉君
理學博士 ●飯島魁君
ドクトル ●伊澤信平君
●色川國士君
醫學博士 ●伊東祐彦君
ドクトル ●飯盛挺造君
醫學博士 ●伊藤隼三君
理學博士 ●石川千代松君
赤十字社病院長 ●岩井禎造君
醫學士 ●石原久君
醫學士 ●幹瀬雄一君
醫學士 ●石原喜久太郎君
貴族院議員 濱尾新君
醫學博士 ●濱田玄達君
法學博士 ●鳩山和夫君
東京 萩原綱四郎君
醫學博士 ●芳賀榮二郎君
●長谷川泰君
新潟 ●長谷川一登君
小兒科 小原頼之君
醫學博士 ●岡田榮吉君
醫學博士 ●林春雄君
醫學博士 ●佐藤達次郎君
醫學博士 ●緒方正規君
步兵中佐 ●堀内文次郎君
醫學博士 ●土肥慶藏君
醫學博士 ●岡田和一郎君

醫學博士 ●大澤謙二君
醫學士 ●大西秀治君
醫學博士 ●大澤岳太郎君
一等藥劑官 ●恩田重信君
醫學士 ●若杉喜三郎君
醫學士 ●渡邊房吉君
男爵 ●加藤弘之君
醫學博士 ●加藤照麿君
醫學士 ●賀古鶴所君
醫學博士 ●河本重次郎君
醫學博士 ●片山國嘉君
醫學士 ●川上雅氣君
醫學士 ●櫻田龜一郎君
醫學博士 ●金杉英五郎君
醫學士 ●笠原光興君
醫學士 ●唐澤光德君
醫學士 ●河野衛君
醫學博士 ●高橋順太郎君
ドクトル ●高山紀齋君
醫學博士 ●高木兼寬君
法學博士 高木豐三君
醫學博士 ●田代義德君
新潟 ●田代亮功君
男爵 高崎正風君
醫學士 ●竹中成憲君
醫學士 ●高山耕安君
新潟醫學校長 ●高橋辰五郎君
藥學博士 ●丹波敬三君
醫學士 高橋良碩君
藥學博士 ●田原良純君
醫學士 ●田村光顯君
醫學士 ●久保猪之吉君
醫學士 ●米山彦郎君
二等軍醫正 ●屋野篠光君
醫學士 ●宮木傚君
三等軍醫正 ●橋井忠顯君
大日本教育會長 辻新次君
理學博士 ●坪井正五郎君
醫學博士 ●長與稱吉君
男爵 南部甕男君

理學博士 藥學博士 ●長井長義君
醫學博士 ●遠山椿吉君
醫學博士 ●中濱東一郎君
醫學士 ●黑田次通君
醫學士 ●栗木朋藤君
海軍中佐 ●小笠原長生君
醫學士 村松秋三君
醫學博士 ●隈川宗雄君
醫學博士 ●栗本東明君
醫學士 ●山田戩三君
醫學士 ●山田弘倫君
醫學士 ●山根正次君
岡山 山川春二君
衛生試驗所技手 ●丸山長四郎君
ドクトル ●松山陽太郎君
ドクトル ●小此木信六郎君
東京盲啞學校長 ●小西信八君
廣島 小泉貞君
醫學士 ●古川榮君
東京 布施正畝君
南滿洲鐵道會社總裁 ●後藤新平君
元帝國大學教授 ●エ、ベルツ君
醫學士 ●甲野棐君
文部書記官 ●寺田勇吉君
醫學士 ●寺田[illegible]作君
醫學士 ●寺田織尾君
子爵 秋元興朝君
前軍醫總監 ●足立寬君
ドクトル ●新井古芳君
ドクトル ●富士川游君
高崎醫會長 ●土谷金次君
產科婦人科 ●水[illegible]君
ドクトル ●久保田政彦君
醫學博士 ●佐々木政吉君
醫學士 ●淺田以次君
醫學博士 ●朝倉文三君
ドクトル ●朝山後六君
醫學博士 吾妻勝剛君
醫學博士 ●佐藤三吉君
醫學士 ●櫻井郁二郎君

ドクトル ●佐伯理一郎君
醫學博士 ●柳順次郎君
醫學博士 ●侍保三郎君
醫學士 ●佐藤得齋君
醫學博士 ●櫻井次郎君
醫學博士 ●楠瀬[illegible]君
醫學士 ●北村[illegible]造君
醫學博士 ●北島多一君
ドクトル ●北川乙二郎君
醫學博士 ●木下正中君
醫學士 ●北島小太郎君
醫學博士 ●北里柴三郎君
醫學博士 ●三浦守治君
醫學博士 ●三浦謹之助君
小兒科專門 ●宮本仲君
理學博士 ●箕作佳吉君
醫學博士 ●三島通良君
醫學博士 ●三宅秀君
醫學博士 ●三輪信太郎君
伯爵 土方久元君
醫學士 ●島村俊一君
醫學博士 ●弘田長君
ドクトル ●日高昂君
ドクトル ●須田卓爾君
醫學士 ●辻川德君
醫學博士 ●木村德衛君
醫學博士 ●森林太郎君
醫學士 笹川三男三君
醫學士 ●波多野惇君
醫學博士 ●吳秀三君
ミス ●リッデル
ミス ●ヒユース
ミセッス ●コーツ
ドクトル ●菊池循一君
醫學士 ●橋本左五郎君
醫學士 ●鳥居春洋君
ドクトル ●土田卯三郎君
ドクトル ●佐藤迪雄君
ドクトル ●西山信光君
醫學士 ●澤崎寬制君



汽船ハトリカ甲板に裝置せる船暈豫防椅子の圖

婦人衛生雜誌第二百十一號
（明治四十年六月二十日發行）



實扶的里に就て

醫學士　澤崎寛制君講演
佃事務所員　新井重氏速記

私は今日御依賴に依りまして、此演題に書いてある通り、實扶的里と云ふ病氣のことに付て、少し御話いたしたいと思ふのであります。然し私の前に、已に實扶的里に就て御話になつた御方があるかも知れませぬが、御聽になる方が變つて居れば、繰り返して御話しするも無益てないと思ひましたから、今日實扶的里のことに付て御話することになつたのてあります。一體此實扶的里と云ふ病氣は世俗に馬脾風と云つて居る病氣てありまして、主として子供が罹る病氣て餘り大人が罹らない病氣てあります。尤も大人は全く罹らないこともないが、主に子供が罹る、此子供が罹る所の病氣を皆さんにお話すると云ふのは、或は少しお門違ひてあるかも知れませぬが、併し皆さんは現在或は未來に於て、お母さんたる方や、然らざるも子供の教育に任ぜらるゝ方が澤山あろうと思ひますから、婦人衛生の一箇條たる子供の衛生と云ふことに大變に必要てあらうと思ひまして、それて私が實扶的里のことを皆さんに御話するやうになつたのてあります、併し私は學術上の智識にも乏しく、又斯の樣な席に於て御話したことの經驗もなく從て喋舌ることも頗る拙てありますから、皆さんに快感を與ふる樣な事は少しも出來ないてあろうと思ひます、殊に病氣のことに付て素人の方に御話しても、話自身が如何にも無味乾燥てある

が爲めに、少しも面白いとか可笑しいとか云ふやうなことはないけれども、併し是は聽いて置いてさう損てないだらうと思ひますから、私が澁滯の口も憚からず皆さんの御淸聽を汚す譯であります。

大變に前置は長くなりましたが、此實扶的里と云ふ病氣は一體どんな病氣であるかと云ふことを御話する前に、實扶的里と云ふ病氣はどんなに怖い病氣であるかと云ふことを、御話する方が宜いだらうと思ひます。

此實扶的里がどんなに怖い病氣であるかと云ふことを御分りになるやうにするには、此病氣の統計を御話する方が宜いと思ふ、デ餘り澤山の統計を御話した所が、何にもならないから、極く近い所を御話をすると、明治三十九年即ち去年中に東京府で流行つた實扶的里患者の數が、皆で千三百四十九人ある、其中で三百二十六人死んで居る、さうするとザット病人の四分の一、之を百分比例にすると二十四%即ち百人に付て二十四人死んで居る、それからして日本全國の統計を見ますると、全體で一萬四千百六十四人、其中で死んで居るのは四千百七十九人、さうすると全體の患者の約三分の一、それを百分比例に直すと云ふと二十九%即ち百人に付て二十九人内外死んで居る、デあるから十人の患者の中で三人死んで居ると云ふ勘定になる尤も此統計は實際と少しも違はぬと云ふ譯には參りませぬが、大體實扶的里患者數の見當が付く譯である、して見ると或は百人に付て二十四人或は百人に付て二十九人死んで居ると云ふは非常に死亡數が澤山である、殊に全體の患者が一萬四千何百人と云ふ非常に澤山の數であるからして、實に怖るべき病氣であると云はなければならぬ。

次に此樣に怖るべき實扶的里の病源は何であるか、即ちどう云ふものが此怖るべき實扶的里と云ふ病氣を起すかと云ふに、是は餘り深いことを御話しする必要もないが、此二十年ばかり前にレフレルと云ふ人が初めて見付け出した所の實扶的里菌と云ふ一の

黴菌である、無論此實扶的里菌と云ふものは非常に少ない黴菌であつて、顯微鏡の中でも非常に强い度でなければ、實扶的里菌であるかどうかと云ふ事が分らない程、小さいものである。デ其黴菌は桿狀菌であつて丁度細長い棒の樣な形をして居るものである、其黴菌を純粹に培養したのを此處に持つて來ましたから一寸お目に懸けます、是は總て實扶的里菌を殺してありまして、皆さんが手に持つて御覽になつても決して實扶的里に罹るやうな心配は毛頭ございませぬ。此の硝子管を透して見ると、黄い寒天の樣なものヽ表面が斜になつて居る、此斜面に何だか水の露のやうなものが所々に附いて居る、是が實扶的里菌が澤山に繁殖した所の固まりである　デ此露のやうなものを一つ取つて見ると其中に實扶的里菌が何千だか何萬だか分らない位澤山居ます。是は御廻し致しますから後で御覽になつて下さい、兎も角も此實扶的里菌と云ふものがあつて、之が身體の或部分に附着すると云ふと、色々の症狀が起り又色々の障碍が起る計りでなく、尚ほ進めば生命が無くなると云ふやうな恐ろしい黴菌であります。

此實扶的里菌は何處に居るか、何處に其樣な恐るべき黴菌が居るかと云ふことを一寸御話しなければならぬ、此實扶的里菌の居る所は實扶的里に罹つて居る病人の鼻の中や、咽頭や喉頭や（咽頭と云ふのは口を大きく開けて見ると奥の方の能く見ゆる所で、喉頭と云ふのは、それよりも下で聲の出る所である）或は病氣が重い時には氣管又氣管支の中にも居る、別て鼻の中や咽頭や喉頭の邊りに非常に澤山居る（疵などにも實扶的里の黴菌が附くことがある又實扶的里が外見癒つた樣で、色々の症狀が少しもなくなつて仕舞つても、鼻腔や咽喉に中々長く居る事がある、それからして又實扶的里菌が鼻の中や或は咽喉に附いても、チツとも病氣に罹らないと云ふやうな人もある、デ斯う云ふやうな實扶的里の患者或は病氣は起らないでも鼻腔や咽喉に澤山實扶的里菌を持つて居る人の痰や、唾や或は鼻汁などの中

には非常に澤山の實扶的里菌が混つて居る、此樣な人が咳をする、或は嚏をすると云ふと痰、唾、鼻汁などが吾々の目に見えなくても非常に小さな霧のやうになつて飛出す此痰、唾又は鼻汁の固まりの中には實扶的里菌が澤山に這入つて居る、それであるからして實扶的里患者が嚏をする或は咳をすると云ふと、そのあたりへ恰度如露で水を撒くやうな非常に澤山の黴菌が撒布される、又實扶的里患者が鼻汁をかみ或は唾をする、さうすると云ふと矢張り黴菌が其處へ出る、或は實扶的里患者が御飯を食べる、すると黴菌が茶碗へも附くだらうし、お箸にも附くだらう、さう云ふ譯でありますから、黴菌は其附近へ盛に散亂され、從つて黴菌は遠慮なく玩具にも附着く、衣服にも附着くと言ふ風に其部室にありとあらゆる物には皆な實扶的里の黴菌が附着くそればかりてはない、實扶的里患者があれば或はお母さんなり或は　兄弟なりが看護する、さうすると其人の衣服にも附く、其人の手にも附く、さうして看護して居られる方が自分の手に實扶的里菌が附いて居る事を識らずに外に行つて物品に觸れる、さうすると黴菌は其物に附着く。かう言ふ工合に一人の實扶的里患者があれば黴菌は非常に其附近に散亂するのである、もしも其處に實扶的里に罹り易いやうな性質の子供が居て、呼吸をする毎に霧のやうになつて空氣中に混つて居る黴菌を吸ひ込めば鼻にも附き咽喉にもつく、又さう言ふ子供が其邊へ行つて玩具などを持てば、其玩具にもついて居るから、それが知らず識らずの中に、手に附く、口に這入る、咽喉に行くと言ふ工合に感染する、其人が又病氣に罹れば又さう言ふ工合に黴菌を散らす、此やうに段々と甲から乙、乙から丙と云ふ工合に傳播するのである、併ながら實際いくら氣を付ても、チツトモ實扶的里の病人の所へ行つたことのないと言ふ人がナカ〳〵澤山病氣に罹る、其事は餘り六ケしくなるから御話しないが、矢張り實扶的里に罹つた人は、何處からか傳染て來たと云ふことは確かである、さう言ふ風にし

て實扶的里が段々廣がる。
次に實扶的里に罹ると言ふとどういふ風な害を蒙るかと言ふことを一寸御話し致します、デ實扶的里菌が或は鼻であるとか或は咽喉であるとか言ふ所に附着くと言ふと、其所に病氣が起る、假之腫れもする痛もするそれから、其處に義膜と言ふものも出來る其事は後から御話しするとして兎も角も實扶的里菌が附着いた所に病氣が起るが、一方ては實扶的里菌體から一種の恐るべき毒が出て之が患者の身體の內に吸收せられ身體中を廻つて歩く、故に實扶的里菌が附着くと言ふと二通りに働く即ち一つは附着いた所、それから一つは全身の中毒である。之を極く卑近な例を採つて言ふと、夏時の候、御馳走があつたからと言ふて食過し、水でも澤山飲むといふと、皆さんも御經驗があるでせうが、（吐瀉が起るそれと同時に身體がだるい、熱が出る、頭が痛むといふやうな、全身に色々な障碍が起る、それて斯う云ふことは毒の爲めか、或は又胃腸の內に黴菌が澤山に增殖て一つは胃なり或は腸なりを直接に侵して吐瀉を起し、それと同時に其毒が身體の內に吸込まれて身體中を廻つて歩くからして熱が出る、頭が痛むと言ふやうなことが起るのと同し譯である、併し考へて見るに實扶的里菌の附く所は、鼻の中か或は咽喉かに過ぎないから、侵される所は極く狹いのであつて、身體全體に實扶的里菌が一杯になつて居ると言ふやうな譯ではない、して見ると幾ら其處に澤山黴菌が附いた所が、たかヾ知れて居る、附いて居るのをスツカリ搔浚ふて見た所が極少しの分量である、黴菌が非常に少ないにも拘はらず、其爲めに色々の病氣が起ると言ふは、如何にも可笑しい噓らしい信ぜられない話であるが、併し學者が色々調べた所に依て見るに、此實扶的里菌が造つた所の毒だけを取出して、それを動物に注射すれば非常に少しの分量で動物がコロリと死んで仕舞ふ、デ皆樣に毒藥はどんなものが怖いかと問へば、先づ屢々きく所の「モルヒネ」と答へる方が少なくないだらうと思ふ、實に「モ

ルヒネ」は非常に毒な藥である、併し此「モルヒネ」に比較して實扶的里菌が造つた所の毒は、其毒の强さに於ては負けない位である、斯樣に實扶的里菌が造つた毒は强いものでありますからして、實扶的里菌が咽喉に少し附ても、鼻の中に少し居つても其造る所の毒は非常に恐ろしいものであつて、此毒の爲めに澤山の人が死すると言ふことを知つて居なければならぬ。以上で先づ實扶的里菌がどう云ふ風に働くかといふことを御話した。

それから次に實扶的里といふ病氣はどんな病氣であるか或は實扶的里といふことをどうして知るかといふ事を御話しなければならぬ。併し此實扶的里がどういふ病氣であるかと言ふ事は餘り深く御話するの必要がないから極く簡單に御話しするが、一體實扶的里は如何なる病氣であるかと言ふ事を御話するは非常に困難である、何故なれば、實扶的里に罹つても必ずしも其の見た所の狀態が一樣でないからである、假令實扶的里に罹つて鼻だけが侵される事もある、咽頭だけに附着くこともある、或は喉頭に附着くこともある、或は鼻と咽頭が一緒に侵され、或は咽頭と喉頭と一緒に侵されると言ふやうなこともある、それから鼻も咽頭も喉頭も同時に侵されることもナカ／＼多い。そればかりでなく、尙ほ肺に行く所の氣管モウ少し下の方の氣管支の方までもズット侵されることもある、デ侵される處によつてそれぞれ症候も違ふからして此實扶的里はどういふ病氣であるかといふ事を一口に御話する事は少し六ケしいが。

先づ實扶的里菌が咽頭に附いた場合を御話しする。咽頭に黴菌が附いて澤山に繁殖しても、初めには氣が附かぬことがある、或は初めから少し咽喉が痛いエラ／＼するといふやうな事もある、或は物を呑込む時に殊に唾などを呑込む時に痛いから泣くとか、聲を出す時に大變に痛いとか、或は咽頭から少し位血が出たりする事がある、それから外から頸部に觸れて淋巴腺此グリ／＼が腫れて押して見ると子供が

痛がるといふやうな事で、病氣ではないかといふ事が氣が附く、其時にお母さんなどが注意深い人であつて、咽頭を見れば、病氣の始まりには咽頭の粘膜が赤く腫れて、其上に點或は粟粒のやうな少し黄味を帶びた白いものが出來る、其出來る時は扁桃腺と言ふ所が一番多いのである(扁桃腺はお互に口を開けて見ると咽頭の兩側に少し高くなつて居る所である、此中間に上の方から眞中に懸壅垂と言ふ突起樣のものが下つて居る)モウ少し病氣が進めば點のやうなものが段々大きくなつて、互に癒合して仕舞ふさうすると薄き膜のやうなものが出來て扁桃腺などがスッカリ白くなつて仕舞ふ、此膜の樣なものを醫者の方では實扶的里の義膜と言つて居る、義膜は扁桃腺ばかりでなく口蓋、懸壅垂、咽頭後壁と言ふ所までも出來ることもある、口を開けて見ると、口の奥の方が全體に白くなつて、其白くなつた所の周圍が赤くなつて腫れて居る、デ物を飲んだり又ものを言たりすると大變に痛み、食物を取られぬ事もあるこれが咽頭の實扶的里である、尤も此他の病氣で大變之に似たやうなものもあるが併しそれが實扶的里であるかないかは醫者に鑑別して貰はなければならぬ。

次に實扶的里が鼻を侵す場合には極く小さな子供であれば、呼吸が大變に苦しくなる、尤も其呼吸に苦むのは咽が詰つて苦しがるのではなくて、鼻が詰まる爲に苦しがるのである、是は實扶的里でなくとも、風を引いて鼻の中が腫れる時に、矢張同じやうに鼻が詰つて大變に苦しがる事がある、小さな子供でなければ口で呼吸をする、聲が鼻聲になる、鼻汁が出る、鼻血が出ることもある、それから膿の樣なものに血が交て出るやうなこともある、少し氣を附けて鼻の中を覗いて見れば鼻の中にも前に御話した義膜が附着いて居る、或は此義膜が外に出る事がある、嘗て斯ういふことがあつた、私が知つた人の子供で、二三日前から風を引いて居つたが、今朝嚔をした所が大變妙な白い硬いものが鼻の中から飛び出

したが、重い病氣ではないか診て見れと言はれた、其時に飛出したものを見ると、鼻に出來た義膜が嚔と同時に飛出したのである、其病人は直ぐ入院して早く癒つた、鼻の實扶的里は先づ此やうな症狀が起るものである。

若も實扶的里菌が喉頭に附くと云ふと、先づ多くは子供の聲が涸れる、咳が出る、其咳は普通の咳と少しく違ふ、妙に響きのない嫌な咳である、それはチヨッと眞似をして御聞かせすると言ふ事は出來ませぬが、醫者の方では犬の吠えるやうな聲と言つて居る、先づガス〳〵した冴へない咳と言つて宜いだろう、それからモウ一つは息が大變に苦しくなる、一體喉頭と言ふ所は御承知の通り聲の出る所で、又呼吸をする際には空氣が喉頭を通らなくては肺に出入する事が出來ない、所が喉頭は元來狹い所であるからして、若も實扶的里の爲めに其處が腫れ尚其上に義膜が出來ると言ふと、狹い所が猶ほ狹くなる、從つて息の出入りが非常に困難になつて、呼吸の度每にゼイ〳〵と鳴る、それで喉頭の狹窄が段々に強くなれば、息が段々に通ひ惡くなり、患者は一生懸命に力のあらん限り呼吸に勉め其結果として胸廓の運動は非常に劇しくなり、肋骨と肋骨の間や、水落のあたりは呼吸をする度に強く出たり引込たりする、患者に話を仕掛けても迚も返答をすることが出來ない、お乳も飲めない、御飯も食べられない、迚もさう言ふ餘裕はない、唯もう一意專心、呼吸を勉めるのである。又此樣に呼吸困難が起れば、吾々が須臾も缺くことの出來ない、酸化作用と言ふことが不充分である、一體吾々の身體は、寐ても起きても、空氣中から酸素を取つて、身體の中から炭酸瓦斯を外部に出さなければならぬ、然るに空氣の出入が少なくなれば、酸素を取ることも炭酸瓦斯を出す事も非常に困難になる、之れが爲めに患者の脣や、鼻の尖や、手足の指がスツカリ紫色になる。側から見て居つても實に苦しさうて、實際又非常に堪へられない程苦しいのである、患者はどうかして此苦みを少な

くしたいと考へて、時としては輾轉反側と言つたやうに、非常に藻掻く事がある、併し藻掻けば藻掻く程な程苦しくなるからして、お母さんであるとか姉さんであるとかいふやうな方が此有樣を御覽になると、非常に同情に堪られないだらうと思ふ。吾々醫者で始終見て居つてすら、さういふ狀態を見る每に常に同情の淚を禁じ得ないのである。若も喉頭が其以上細くなつたならば息が詰つて窒息して仕舞ふ、此窒息に依て死する病人も亦ナカ〳〵少くないのである。若しも前に言つた如く鼻腔咽頭及喉頭か同時に侵される場合には鼻や咽頭や喉頭の症狀が一時に起つて來るのであると思へば良い、以上に於て實扶的里か鼻、咽頭、喉頭を侵した場合をザット御話したが。尙此外に何れの場合に於ても實扶的里菌が造つた毒が身體の內に吸收される爲めに又色々の症狀が起つて來る、それは咽喉や鼻の症狀が起つて來る前に、小さな子供であるならば遊ばなくなる、機嫌が惡くなる、或は御飯を食べなくなる、頭が痛くなる、三十八九度位の熱が出ると言ふ風に色々の全身症狀が起り、尙其上に鼻や咽喉の症狀も直ぐ加つて來る、デ若しも其毒が段々強くなれば患者は始終眠つて居るやうな狀態になることもある、或は寢られないで泣くやうなこともある、或は譫語などを言ふやうなこともある、極く強く毒が廻れば病人の容態が非常に惡くなつて遂には中毒の爲めに死するに至るのである、實扶的里の病人が此中毒の爲めに斃るゝ數は一番多いのである、若し此場合に適當な療治をして病人が段々快くなるならば御飯も美味くなり、熱も降り、身體のだるいのも段々快くなり、鼻や咽喉の義膜も追々離れて、鼻の孔も快く通る樣になり、喉頭の痛みや、息の詰まるのも樂になつて、遂にはスッカリ癒つて仕舞ふ。併し病氣が重い時及漸々癒るまでの間にも色々の餘病が起り、此餘病の爲に死ぬと言ふこともナカ〳〵少なくない。それから他の病氣には餘り見ないが、實扶的里では、病氣が癒つて仕舞つた後に、突然に死ぬことがある、假

今まで庭へでも出て機嫌よく遊んて居たる子供が、急に容態が惡くなつて、醫者を呼びに行く暇もなく死ぬと言ふことがある、それは實扶的里の毒が身體の內に殘つて居つて身體に一番大事な心臟の働きを弱くするからである。

斯う言ふ風な病氣であるからして、實際の上で、子供が風を引いたやうな心持ちで、機嫌が惡い、食事が進まぬ、熱が出ると言ふやうなことがありて、咽喉が痛むか或は嫌な咳が出るか、或は鼻が詰り鼻汁或は衂血が出るならば、直ぐ實扶的里てはないかと言ふことに疑を起して、醫者の診察を乞ふ必要がある、尤も子供では、實扶的里でなくとも、其樣なことも始終あるから、一々診て貰つた日には際限がないと御考へになる方もあるかも知れませぬが、それは大變に惡い、若しも實扶的里でなければ宜いが、百に一つも實扶的里であるならば、一刻後るれば一刻だけ癒り方が惡いからして、少しても早く醫者に診て貰ふ方が最も安全の策である、若も前に御話したやうに、鼻の中や咽頭に義膜が見ゆる場合には、尙更急いて醫者に適當な療法を講じて貰はなければならぬ。

次に實扶的里に罹つたならばどうしなければならぬか、即ち其療法に付ては無論自分の信用ある醫者に悉皆委せて仕舞ふ方が宜しい、デ若も自分が其看護を助ける場合には、醫者の命令を十分守らなければならぬ、例へば患者の食事だとか、或は室內の注意（例へば空氣の流通、室內の溫度或は室內の乾濕等）或は藥の用法と言ふやうな事は總て醫者と相談し、醫者の注意を俟つて嚴重に行へば、決して間違はない筈である、此れ等に付ては特に今此處にお話しないが、併し唯下の二つの事だけを此療治に付て御話して置きたい。

其一は血淸注射と言ふことであつて、モウ一つは外科手術である、デ此實扶的里の療法には幸にして實扶的里治療血淸と言ふものが出來て居る。此血淸はベーリングと言ふ有名なる人が、初めて造つたので

ある、此實扶的里の血清を、實扶的里に罹つて居る人の身體内に注射すれば、其病人の身體の中に廻つて居る所の毒を消して仕舞ふ、即ち毒消である、デあるから此血清は、治療上非常に貴重なものであつて、若し實扶的里に罹つたならば早速血清注射をして貰はなければならぬ。然るに此血清と言ふものは非常に有難いものには違いないが、若しも注射する時期が後れるならば、其貴重なる血清も少しも効力がないのである、それは如何なる譯であるかといふに、毒が悉く身體の隅々までスツカリ廻て身體を組織する細胞と言ふものと確と附着いて仕舞へば、如何に澤山の血清を注射するも、少しも其毒消しの効力がないのである、デあるからして血清注射をするには成べく早く行ふと言ふ事が必要である、注射を早くすれば血清の効力が多大であるばかりでなく、注射に用ゆる血清の分量も少なくて宜い、尚此注射が其時期に非常なる關係を有すると言ふ事に付ては統計を見れば一目瞭然である、今單に一つの統計を御話して見ますると、コツセルと言ふ人の統計によれば、第一日目即ち病氣になつた其日に血清を注射をしたものは一人も死ない、第二日目即ち昨日病氣が起つた今日血清注射をしたものは、百人に付て三人死んで居る、第三日目になると百人に付て十三人死んで居る、四日目になると百人に付て二十三人死んで居る、五日目には百人に付て四十人死んで居る、デあるから第一日目は一人も死ない、二日目は三人、三日目は十三人、四日目が二十三人、五日目が四十人と言ふやうな風に、注射の時期が遲くなればなるほど其死亡數が多い、即ちこれを逆に言つて見れば注射が早ければ早い程死亡數が少ない、併し此病氣の輕重は人に依て違ふものであるから、必ず二日目には百人に付て三人死んで、三日目が十三人死ぬると定まつた譯ではないが、澤山の統計を見ても、何れも早く注射すれば助かる事も多く、遲く注射すれば澤山死ぬと言ふことは動かすべからざる事實である、デあるからして前に御話したやうに實扶的里患

者があつたならば、一瞬時も早く實扶的里の血清注射をして貰はねばならぬ、故に實扶的里に罹つた事を見附出すことが早ければ早い程、其人は助かる望も多いのであるから、誰でも子供の哺育の任にある人は、常に注意を怠らない樣にせねばならぬ。

それからモウ一つ御注意したいのは、前に御話したやうに、喉頭が強く侵された場合には、呼吸が非常に困難になる、若し其儘にして置けば、見す／＼患者は咽喉が詰つて窒息して死んで仕舞ふ、此急を救ふ爲めに醫者は口中から喉頭に金屬製の管を挿して一時を凌ぎ、腫も引き義膜も落つる事を待つ事がある、又喉頭の狹窄した所よりも少しく下の方で、氣管を外部から切り、孔が塞がらぬ爲めに、少し曲つた金屬製の管を差込むで置く、此手術を氣管切開術と言ふ、つまり氣管に風穴を造る譯である、四五日なり五六日なりの内に喉頭の病氣が癒つて、空氣が充分通る樣になれば管を取り去るが、跡の疵は三四日經てば癒着して痕に少時瘢痕を殘せども、それも段々に消えて仕舞ふから、年頃までには殆ど醜形を殘さなくなるものである、此手術に依つて非常に澤山の病人が助かつて居る、然し此氣管を切る事も、矢張餘り時期が後るれば効力がないから、氣管切開術を施すにも成べく早い方がよいのである、若しも皆さんが咽喉の苦しさうな患者を御覽になつたならば、成べく早く醫者へ連れて行く事は玆に於て又必要である、又醫者の方でも氣管切開術を施すには多少の準備がいる、機械も揃へ消毒もせねばならぬが故、五分か十分位の準備の時間が要るのであるから、若しも非常に急を告ぐる場合には機械も澤山あり、手術の準備も整つて居る病院へ駈付けなければならぬ、吾々の病院へ入院する患者でも途中で窒息して死ぬるのがある、それから呼吸のある内に病院へ着くは着いても氣息奄々として今にも息が止まりそうで五分か十分の準備を爲す暇もなく手術にかゝらねばならぬ事もある、それてあるから咽喉の詰る時にはしばらくの時間も猶豫の出來ないものてあ

る、又幸にして施術に適當な時期に入院する、デ醫者は醫術の必要を患者の附添人に說いて施術の斷行を勸める、所が附添人が親戚の人だとか、或は召使であれば一應患者の父母に相談しなければならぬと言ふ、或は患者の母が附添つて來てすら、此期に及んで、主人に相談せなければならんなど丶言ふ、之れは殊に下層社會の餘り敎育のない人に多い併し患者の狀態は其樣に優長な場合ではない到底相談の時間を待つて居られない、遂に附添人の躊躇の爲めに間に合はずして可惜命を失ふ事もないではない、之れは茲に御列席の敎育ある方々には想像も出來ぬやうなことでありますが、實際に於て譯の分らない人達には、ナカ／＼多いのであるモウ一層譯の分らない者になると、どうせ死ぬるものなれば疵を付けないて下さいと言ふのがある、これに至つては何とも斯とも申樣がない、尤も醫者の方でも氣管を切開して必ず助かるものならば、附添人の承諾なくとも、施術をする事も出來るが、此手術を行ふても、必ずしも助かるとは受合はれぬから、無暗に承諾なくして行ふ事は出來ぬのである、であるからして此處に御參會の皆樣に申上げるは、少々馬鹿げて居る事だが、非常の場合には非常の手段を取る事は止むを得ないから、いざと言ふ場合には度胸を据えて出來る丈けの方法を、試みて貰はなければならぬ、と言ふことを御承知を願ひたい。

それから終りに豫防と言ふことに付て一寸御話して置く、若しも御家族なり或は知己の方の中に實扶的里の病人が出たならば、早速隔離をしなければならぬ、此隔離と言ふは患者を適當の病院へ入院せしむるか或は自宅で療治をするならば、餘り家族の部屋と交通しない所へ移す事である、若しも自宅療養をさするなれば、病院へ移したと同じ積りで家族でも看護に從事する人の外は交通してはならぬ。又初めに患者の寢て居つた部室は、充分消毒をしなければならぬ、其消毒の事などは詳しく言へば大變に長くなるが、大體御話をして見ると、盥は石炭酸のやう

な藥で能く奇麗に拭き、天井や、壁や、襖や、障子は噴霧器と言つて如露の樣なもので消毒藥をかけねばならぬ、或は室内を「フォルマリン瓦斯て消毒する事もある、それから患者の弄つた玩具だとか衣服、夜具、蒲團の類は石炭酸のやうな消毒藥を振かけて日光に當てる事もあるが、一番良いのは蒸汽消毒である、病人の吐いた痰や、唾や、鼻紙や或は嗽をした水の樣なものは出來るならば燒いて仕舞ふ方が宜いが、液體で燒くことの出來ぬ物は煮るか或は石炭酸又は昇汞の如き強い消毒藥を加へねばならぬ、患者の家族又は同居人で十四五歳の子供があれば、豫防注射を行ふ方がよい、此豫防注射と言ふのは、前に御話した治療血淸を病氣の起る前に注射するのであつて、此血淸を注射すれば、病氣を未發に防ぐ事は出來るのである、然し血淸注射をしたからとて、油斷して病室に入る樣な事は決してゆるされぬ、又看護に從事する人は大人で一人の人に定めて置かねばならん、デ病人は勿論の事、看護人も餘り病室の外へ出てはならん、萬止むを得ずして病室外に出なければならぬ時には、手は消毒藥で洗ひ、口は鹽硼水などて含嗽をなし、衣服を着換へなければならぬ、若し此手續を履まぬ時は、其人の手や衣服に黴菌が附いて居るから、病毒を室外へ運出す虞れが澤山あるのである、若し近所或は知己などに病人が出來た場合には、餘り訪問しない方が宜しい、傳染病の訪問は自他共に迷惑てあるから、世間の義務も交際上の習慣も考ふべき必要はない、併し止むを得ぬ事情があつて訪問したならば、含嗽、入浴、更衣等によつて身體を淸潔にしなければならぬ。

最後に今一つ御話しせなければならぬ事がある、それは實扶的里に限らず、ペスト、虎列拉、腸窒扶斯、發疹窒扶斯、赤痢、天然痘、猩紅熱の如き所謂八種傳染病では、醫者が診察した以上は其筋へ屆け出なければならぬ事になつて居ります、然るに消毒されるのが嫌だとか、或は商賣に差支へるとか、或は外聞が惡いとか云ふ色々の關係から、醫者の屆出を拒

む人がある、然し患家から頼まれたれが責めに屆けないと言ふ事は、醫者にも充分罪はあるが、又醫者を制肘した患家も罪が輕くはない、若し不心得の人があつて屆出を怠る時は、其害は啻に患者自身家族計りでなく、禍を他人にまで及ぼすに至るのである、其例を揚ぐれば傳染病を秘密にするために、患者の療養が充分に行かない計りでなく、消毒が不充分であるから、家族及他人に傳染する虞れが多い、即ち患者計りでなく公衆に對する衞生上にも非常なる害を來すものであるから、詰らない考へを去て、若しも實扶的里の如き傳染病患者が出來たならば、規則に從ひ早く屆出てゝ、他への傳染も防ぐと言ふは、公德と言ふ上から見ても是非必要であらうと思ふ。

是で、實扶的里に付てザット御話しいたしました、デ萬一御自分の家族知己に實扶的里患者か現はれた際に、今私が申し上げた御注意の少しにても益に立つ事があれば、喜ぶものは啻に皆樣と私のみではありません、長々とつまらぬ長談議を續けまして、皆樣を御苦めいたしました事を御詫いたします。

睡眠の研究（續）

（茨城婦人衞生會に於ける講話）

講師　秋元洗二君

（甲）靜脈性の血液。人が若し劇場とか、又は寺院等の樣な多人數群居つた所に居りまするときは、精神が自ら朦朧となりまするし、又密室中で火鉢を用ゆることがありまするときには、神思が爽かならずして間々眠氣を催すことがあるのは御同然が屢々實驗する所でありまするが、是れ必竟炭酸に富んだ不潔な空氣を呼吸して、不純なる血液の供給を受けまして、腦細胞を中毒したる結果に外ならないのであります、是に因りて見まするときは、密閉した室内にありましては、廣い室内に居りまする時よりも睡眠を催し易いことのあるのは、他にも原因があることは素より論を竢ちませぬが、又多少血液不循の關

係がなきにしもあらざる譯かと存じます。

(乙)疲勞物質。凡て吾人が心身を勞しますときには、身體の細胞を破潰し、爲めに産生した老廢物を動脈性の血液に因つて酸化燃燒して之を體外に排泄せんが爲め靜脈系を歸流して來るもの、是れ所謂疲勞物質であります、而して此物質を產生するの事實は從來諸大家の證明するところでありますが、尙ほ近時獨逸の醫學博士ウォルフアングワイヒハイトと云ふ人が無慮八百回以上の試驗を經て次の樣な證績を得たことを報告致しました、則ち健康な豚鼠を小さい車輪上に載せて、遂に死に至るまでも回轉せしめて全く疲勞を極めました後に、其鼠の筋肉から液汁を搾り取り、之を他の健康鼠に注射しました所が、忽ちにして高度の疲勞狀態となり、眼球は飛び出して約二十分時の後斃死した事を見ました、夫れ故ウ氏は此物質を疲勞毒と名稱致しましたが、プライエルと云ふ人は、其化學的成分は乳酸の樣なものであると申して居ります、然るに我國の福來博士等は斯う云ふ事を申して居ります、其れは吾人は日常疲勞の結果として每に此物質を產生するものであるが、其れが血液中に循流して來る時は血管開張中樞を刺戟しまして多量の血液を全身の外周部に誘導しまするから、自然と腦髓の貧血を惹き起して睡眠を發するものである、故に睡眠の間接原因は疲勞物質であつて、直接原因は腦貧血であると云ひます。

以上述べました如くに、福來博士等は疲勞物質の有効說を述べ、フォーレル氏等は、其存在をも非認する等、兩方の說は互に相容れざること氷炭も啻ならぬ有樣ではありますが、然しフォーレル氏の說などは、其論據が頗る薄弱であるから、到底之に贊成するの價値がありませぬ、之に反して、福來博士等の說に至りましては、多少論據が立つて居りますが、只吝むらくは、餘りに、疲勞物質を過信し　疲勞物質を待たなければ、到底睡眠作用を營むことが出來ない樣に論ずるのは、ちと極端に走れるものと云はなければなりませぬ、けれども私も亦疲勞物質の

存在を認めるものですが、其作用は蓋し、次の樣なものに過ぎないのであろうと思ひます。

(天)腦細胞の中毒。疲勞物質は血液に混淆して腦髓の中を循流致します時は、自然腦細胞を刺戟して、多少其活動力を障害するに至るものであります、而して其障害進行するに從ひ、次第に常人の自覺域に感應するものであつて、其有樣は、先づ疲倦に次いで惰氣を以て始まり、夫れから次第に意記力の鈍麻を來しますから、自然觀念を自發活動することはなく、遂に全然意識を消失するに至つたならば、茲に腦貧血其他の作用と相竢つて、睡眠機能を誘起するに至るものであります。

故に極言致しますれば、疲勞物質と云ふ奴は、腦細胞に對する一種の毒物であつて、其細胞の機能を障害するの狀態は宛も麻醉藥毒又は諸種の毒素が血中に吸收せられて腦を中毒し、昏睡狀態に至らしむるのと同一理でありますが、只其異なつて居る所は彼れにありましては、其毒勢劇烈であるが、此にありましては、微弱であると云ふの相違がある許りであります。

(地)血管中樞の刺戟。疲勞物質が血液に混じ頭腦内を循流致します時は、延髓中の血管運動中樞を刺戟して、中等大とか、又は小さい動脈系を縮少し、毛細管の血壓を減しまするが故に自然腦髓の血壓をも沈降しまして、睡眠するのでして、夫の福來博士の所説と大同小異であります。

(人)血行の器械的刺戟。

(甲)腦血壓の減少。吾人が睡眠て居る間は、腦部の血壓を減ずるものであることはモッソ氏が血壓計に據つて、幾多之を證明して居る所でありまして、私も亦親しく實驗して疑はざるところであります、而して斯く血壓を減降せしむるのには、抑も如何の理に據るものであらうか、今余の卑見を陳へますれば。

(一)心臟力の弛緩に由る事。抑も吾人が意識力の爲め、腦細胞の活動を營んで居りますするときは、此部に分布してある神經纖維殊に放線狀冠纖維と云ふ

「すじ」を通じまして、延髓中の心臟神經中樞部に感應し、心臟力を鼓舞して澤山な血液を頭部に運び上げ、以て腦細胞間の血壓を高むるものでありますが、今若し、之とは反對にして、意識力が消滅する爲め腦細胞の活動を廢しましたときには、延いて心臟力を鎭め從て腦部の血壓を減じまするのは、當然認むるところの事實であります、今例を以て之を說明致しましやうなら、茲に人があつて、深夜になつた後、俄然强盜の侵入に逢ひましたらば、彼れ甚く驚愕の感に打たれて、高度の心悸動を起しますと共に、腦髓の血壓をも增して參りまして、若しも、彼れが血管の「アテロマ」變性でもあるものでしたならば、或は腦溢血を起さん計りに充血狀態に陷るのを見るべきでありますが、若し其事態が靜まつて、再び安堵の枕に就くことを得ましたならば、心悸も次第に靜まると共に、腦髓の血壓をも沈降致して參ります、是れと云ふは、精神が興奮する時には、心臟力を高めて、腦壓を增しまするけれども、其鎭靜殊に睡眠致しました時には、心臟力の衰はると共に、腦壓をも減ずるからであります。

(二)血管運動中樞の興奮減弱。吾人の腦髓は、其意識力に因つて、腦細胞から神經纖維を通じまして、延髓の血管運動中樞部に傳達して、各部血管の縮張を左右し得るものであります、今之を例て見ますれば、吾人が憤怒又は耻羞の情を發しまするときは顏面が潮紅し、又恐怖とか憂愁の感に打たれました時は、面色が蒼白めて來るものでありますが、是れ必竟右の樣な意識力の爲めに、該官能を司どるべき腦細胞を興奮して之を神經纖維の媒介に因つて、延髓の血管中樞に傳達し、頸部交感神經の作用に因つて、頭部の血管々壁の左右したのに據ものであります。是に因つて見ますれば、意識力の作用に由つて、血管を縮めたり廣げたりすることの出來るのは明かでありますが、然らば、何が故に、睡眠の時に於きまして、特に腦部の血管を縮小せしむるものであるが、余を以て之を見ますれば、抑も吾人の醒覺して

居る時には、不斷腦細胞の活動力に因つて延髓中血管運動中樞を刺戟しまして、全身中の中等又は小さい動脈の緊張力を維持して居るものであります、今若し、意識力の消滅するのと共に、腦細胞の活動を廢し延いて血管運動中樞の刺戟をも消失致しましたときには、自然全身に於ける血管の緊張力を減じ、即ち血管々壁を弛緩めますから、多量の血液は廣い下腹部の方面に向て集流しますが爲めに、距離の最も遠い頭腦内などは、勢ひ貧血と爲つて睡眠作用を惹起すに至るのでありましよう。

(乙)血行力の減弱　腦細胞活動力を起さしむるの要素として細胞の間を流通ずる血行力の刺戟も亦與つて力があるものだと云ふことは、曩に之を詳しく論じました、然るに、今若し心力が緩徐になつて血行力を弱めましたときには、自然腦細胞を刺戟することが、少なくなつて、睡眠作用を補助するものであります。

以上列擧した所の論理に因つて觀ましたときは、睡眠の要訣と致すべきものは、一に腦細胞の活動休止に在るものでして、之を誘起するのには、内因と、外因の動力を要すべきであります、而して、右内外の兩因は兩者相俟つて、働作するには相違はありませぬ、若し其内因が強かつたなれば、外因が弱くも、又外因が優つて居れば、内因が劣つて居ても共に睡眠を起すに足るものでありまして、例之ば、著しく意識力が減弱しましたときは、未だ腦貧血の度が十分でなくも、早すでに、催睡しまするし、之に反して、意識力が依然として居ても、腦貧血の度が深かつたなれば、又速に眠りに就くことが出來る樣なものであります、加之睡眠作用を營みますには、各腦質の各部分が、同時に同等な貧血狀態と爲つて、同一の眠睡程度を現はして居るものではなくて、時には甚しい不等なることがあります、例へて見れば、前頭葉、後頭葉、顱頂葉の各部は既に睡眠の度に至

つて居つても、獨り顳顬葉の一部分が未だ其度に至らないことがあります、(局部的半睡眠と云ふ)或は一般の腦部は、既に睡眠に達して居ても、只嗅覺と聽覺と運動中樞の一部とは、未だ活動を廢しないことがあります、(散在的半睡眠と云ふ)或は腦部の大半は全く活動を休止して居るのに拘らず、只知情意の中樞中て、其官能の關聯した部分だけは、未だ睡眠度に至らないことがあります、(系統的半睡眠と云ふ、此樣な具合て、不完全な睡眠をして居る時に、若し其中の未だ睡らない腦細胞に活動を發しましたときは、即ち夢を生じます。

夢

夢は生理學家の解く所ては睡眠の度が淺い時に發するものであると申しますが、然し單に睡眠が淺い計りて發するものては無くして、寧ろ其度の不等なる時に發するものてあります。

詳しく言ますれば、一方の腦細胞は既に活動を休止して居るに拘らず、尙他方一部のものは、未だ活動を持續して居るか、或は反つて興奮の狀がある時に於て發起するものである、例之ば色情觀念に富ました人は他一般の腦細胞は既に睡眠に至つて居ても只色情に關する細胞だけは依然として興奮を續け、低意識の活動に因つて鴛鴦衾裡の情夢を結ぶとか、或は常に恐怖の觀念に充れて居る人は、獨り恐怖を司どる腦細胞のみは、寤寐に興奮の狀態を持續して居るから、眠に就くや、忽ち恐夢に魘はるゝことがある樣なものであります、而して其興奮した腦部が、他部殊に領義の中樞部と聯合を絕たないときは、比較的合理の夢、即正夢を結びますが、若しも該中樞部等と、絕緣して居るときは、不合理的の夢、即ち逆夢を構成するものであります。

又夢には、自動的のものと、他動的のものとの二種がある、則ち

(甲)自動的のものと云ふのは、己れ自分から觀念を發動して生ずる夢想でありまして、即ち一個の幻覺を構成するものであります。

（乙）他動的のものと云ふのは、他の刺戟を受けたる時、錯誤した觀念を發動して起る夢想でありまして、例之ば枕頭に洋燈を點したまゝ、眠るときには、火災を夢み、或は寢室の天井裏にて鼠が騷いだときは、地震又は落雷を夢みるが如き類でありまして、則ち一個の錯覺を構成するものであります、是れに由つて見ますれば、夢は半睡時に於て幻覺、又は錯覺の發現を意味するものであります、由來幻覺又は錯覺なるものは、之を精神病理上より觀ましたときには、一個の異常的精神現象であつて、則ち精神病の一部であります、故に精神力の健全なるものは、夢を見ることが稀であるけれども、其の不健康なものは多夢に惱めることが多いです、古人が、聖人に夢無しとか、また夢は五臟の煩ひとか云いましたが、二者相對照して玩味しますれば、寔に金言であると思います。

又フォーレル氏等は、吾人睡眠中は不絶夢を見るものであるけれども、直に之を忘却れるから、醒覺の後まで記憶に存して居らぬものであるとて、夢を睡眠必發のもの丶樣に論じますけれども、此れは甚しい謬解であると云ふの外はありませぬ、如何となれば、夢其者の本性は、睡眠よりも、寧ろ醒覺に近きものでして、換言すれば、睡眠の度が深くなるに從ひ、次第に夢を見ることが少なくなるけれど、之に反して、醒覺に近くなる程益々其が多くなるものでありますから、夢は醒覺時中に發動した腦力興奮の反應、又は影象とも見るべきものであつて、極言しますれば、陰然たる一個の精神異常に外ならぬものである、見よ多くの場合にありましては、睡眠時に於ての精神力が微弱である爲め、幸ひにして、其行爲上に發現することが無いけれども、若し夫れ、興奮の度が高いものに至りましては、觀念運動の作用に由つて、所謂夢走狀態と爲り甚しき狂態を演ずることがあるではありませぬ乎。

又近頃二三の學者は說を立てゝ曰く、夢は一個の催眠であるから、夢を見る睡眠は尋常の睡眠と催眠

との混合であると云ひ、而して其論據として居る所は、催眠術を施す時に暗示に因つて、直ちに幻覺を生ずる樣に夢にあつても、他人の暗示に因つて、直ちに幻覺を生ずるものであるとて、睡眠中に他人の言語を耳にして、之を過大に感得した例抔を引證したるものがありますけれども、此は睡眠中の低意識に因つて、不完全な腦細胞の活動を爲したのに過ぎないので、未だ完全なる暗示作用と見るべきの價値はありませぬ、(暗示感性の強いもの)殊に傍人と深き「ラポール」を有つて居る時は、容易く暗示の行はるゝものであるも、此は敢て夢時のみに限らずして、醒覺時に於ても亦同然である、殊に催眠の本性は自發的活動が無いものであるに、自發的活動(不完全ながらも)の有る夢と同一視することは、稍穩當でないのみならず、斯く暗示の行はるゝ樣な夢のある事は、甚だ稀であつて、其最も多くの場合は、自發的觀念に因つて夢幻を發現するものであるから、論者の所謂夢は、即ち催眠なりと云ふのは、ちと、極端に走れる見解であると評するの過言でないことを信じます。

夫れ故私は、淺眠中に自發的に幻覺を發すべき夢を深眠中に他發的なる暗示のみに因つて、幻覺を發すべき催眠に擬するよりは、寧ろ、醒覺時中に於て、自發的に、幻覺を妄發すべき精神異常に比する方が、反て穩當であることを信じます。(終)

叢談

健康の本義

醫學士　渡邊房吉君

○身體の健康を判定するには之を二樣の方面から見て、二個の標準に照らさなければならぬ。一は過去及び現在に於ける身體の狀態と、二は將來に於ける

生命の持續とてあること、換言すれば今日まで眞に全く健康であつたが、今日も尚ほ其健康を維持するが、今後ドレ程世の中に活きながらへ、幾何の長壽を保つことが出來るかと云ふことである。

○古來「健康」と云ふ字はむしろ「無病」と云ふ意味に使用れて居つて。先づ〱特記するやうなたいした重病にも罹らず、醫者の厄介になつたことも少ければ、人も我も稱して健康と云ひ慣れて居る。よしや生來蒲柳の質で胸は狹く、肉は細く、顏面は蒼白くとも、未だ肺病の診斷の下らぬうちは得々として「柳に風折れ無し」と誇つてゐるのが常である。勿論「水泳をよくする者は水に死す」と云つたやうに、體格屈强にして筋肉逞ましい者が自分の健康を恃んで、不攝生をするために却つて早く死する例は少くない。

○然しながら或る良好なる境遇にゐれば辛くも健康と云ふ狀態を保持することは出來るが、一朝其境遇が變易ばすぐに其影響を蒙る樣では眞の健康と云ふことは出來ぬ。たとへば消化の良いものゝみを食べれば仔細は無いが、少しても硬い不消化な物を食べれば速に胃病をを惹き起すとか、これぞと云ふ病氣は無いが一寸無理な仕事をするか、或は不慣れの業務に服すれば其疲勞の度が强く、續いて之を爲すことが出來ぬとか、學生が平素はその健康を恃んで居つても、試驗前に少しく過度に勉强すれば直ぐに神經衰弱を起すとか。平素住み馴れた土地に居つて健康であつても、風土氣候の異つた地の風雨に逢へば遂に病氣を釀すとか云ふのも、何れも眞の健康と云ふことが出來ぬのである。

○かゝる健康は不健全なる健康、願はしからざる健康、當てにならぬ健康、攝生と注意とで漸くに贏ち得る健康で極言すれば消極的の健康である。

一朝風雨の變に處すればいたく身體を害せられ、遽かに寒暑の劇に會いては最早や用に堪へぬ樣な所謂自稱の健康者は、吾人の恃みとするに足らぬ所の健康である。

○戰々競々として病氣の手から捉かまるまいと苦心して、漸くに保ち得た健康は、恰も人家に忍び入つた盜賊が人目をしのび、寢息をうかゞひ。拔き足さし足て漸くに家人の眠りを醒まさなかつた樣なもので、極めて不安全な健康狀態である。而しこれが通常人の云ひ慣れ、きゝ慣れ、又かう云ふものと思ひ込んでゐる健康であるか、我々は更に健康の標準に一步を進めて無理な勉强や勞働に服しても聊かも其傷害を受けず、寒暑風雨の變に處しても平然として其常の狀態を失はず、惡疫流行の地に出入りしても能く其猖獗なる傳染を蒙らず、氣候風土の異れる地に轉住しても毫も影響を受けないと云ふ積極的の狀態を以て其理想とすべきである。

○次に壽命の長短に關する健康の理想は、其身體諸機關の全く成熟發育するに要する年月の殆ど五倍だけ生活すべきことである。これが生理學上の原則て諸動物の生存時期は大方これに一致して居る。

○人類の成熟時期を二十一歲とすれば、其五倍なる百〇五歲までは必ず生活しうべき筈のもので、人生五十年と安い相場をきめて、七十年古來稀なりとするのは甚しき見當違ひてある。現に使徒ヨハネは九十三歲、隱者ポールは百〇三歲聖アントニーは百〇五歲、モーセは百二十歲の、長壽を保つたと云ふことに徵しても、我々の生命が百歲に達しうべきことはほのかに考へられるのである。

○今日の人は餘りに老ゆることが早い、年齒未だ四十歲に滿たずして既に元氣の消耗して『我既に老いたり』との考へを抱くものが少くない、さりとは餘りに見限り樣が早や過ぎるてはないか、石川丈山は九十歲、熊澤蕃山は七十三歲、伊藤仁齋は七十九歲、貝原益軒は八十五歲何れも老いて益々壯んなるものがあつたのである、德川家康は七十歲の高齡て尙ほ戰陣に出てゝ干戈の間に縱橫し、豐臣秀吉は薨ずる時六十三歲であつたが身を終る迄孜々として勞し、北條早雲は八十八歲に達し尙ほ矍鑠として衰へなかつた。

○壽命を縮める原因にはいろ〳〵あるが悲痛哀傷のことが多ければ其成熟することも早く、從て其壽命も短いものである、故に嚴酷なる教育や、貧窮なる家庭のうちに生育した兒は、未だ成年に達しないのに早く既に智能は成人を凌ぐに足り、而して早く衰弱するに至るものである。悲哀、不遇のことが少く、其發育が緩慢で恰も長閑な春の野邊の様であれば、心身も亦舒び〳〵として生壽も從て長いのである。

○サレバと云つて此生存競爭の活社會に生れ出たからは、退いて心身を安んずるよりは進んで激浪怒濤に當るべきである。而かも繁忙のうちに餘裕を有して克己自制に注意すれば吾人の所謂積極的健康を得て、長壽を樂しむことの出來るのである。カーライル、ゲーテ、フランクリン、ケレー、ニュートン、等の諸學者が赫々たる業蹟を千歳に殘す程に勉めても、尚ほ聊かも健康を損ぜず八十歳乃至九十歳の長命をうると云ふのも、要するに過度に頭腦を勞するも尚ほ克己自制の力が強くて、性慾の奴隷となることがなく、從て放縱に身を持ちくづす様なことが無いからてはあるまいか。

○「命長ければ恥多し」とは何人のたはれ言か、一瞬一刻、一秒時だも多く此世に活きるのが活物なべての願いてはないか。

○文明が人類の健康を害し其生命を縮めるのも事實であつて、文明人の健康は一般に野蠻人の夫れに及ばない傾きがある。が、文明人の棲息する處には自然と蠻民の跡を絶つに至ることより考ふるに、健康上の點に於ても矢張り文明人は野蠻人に優るもの、様である。

○サレバ日夜精神を勞して競爭場裏に驅逐するからと云つて、さして心配するに及ばず、衞生の原則と生理の條規とをわきまへ、只管健康の修養につとむれば、遂には鐵石の身體となり、多少境遇の變化があるも平然として之に應ぜざるに至り、長壽を保つに至るのである。

○要するに健康の本義とすべきは積極的の健康と、

長命永壽とてある。單に無病と云ふ消極的の意味は吾人の敢てとらない所てある。

皮膚の話

醫學士　M、K、生君

皮膚は吾々の身體を包んて居るものであつて最も大切なる身體機關の一つてあります一體人は日常見慣れて居る物に向つては餘り注意を拂はないて見慣れぬ珍しい物に對しては氣を付けるといふ傾のあるものてありまして例へば胃腸だとか肺臟とか或は心臟とかいふ物は一體どんなものてあるかと知りたい見たいといふ人は多いてすけれ共最も日常見慣れて居る所の皮膚に就いては注意を拂ふ人が甚だ尠いかと思ひます。

然しながら皮膚は吾々身體の外皮てありますから極めて大切なものてあります。

人が健康てあるか病氣てあるか榮養が宜しいか、否かが皮膚を視て判る事が極めて多いのてあります「忍ぶれど色に出てけり我がこひは物や思ふと人の問ふまで」實に身體の內部に諸般の病を發した場合には皮膚にも變化が顯はれて來る事のあるのは誠に夥しいのてありますそれ故に皮膚の狀況を仔細に觀察して病の所在を察する事が出來ますそれから皮膚の狀態を調べると其人の榮養の狀況も判る榮養の善い人の皮膚は一種の立派なつやがあつて滑かてあるけれ共榮養不良の人は色が蒼白てつやを失ひ手に觸れて見ると乾燥した感覺があつて粗てあります凡て體質强壯て榮養佳良なる血液循環が程善く行はれて居る人は其狀況が皮膚の上にも顯はれて來る　隨て皮膚自己が丈夫て血行が佳良　ある場合には――身體を包破して居る皮が健全てある時は內部諸臟器も自ら病に侵さるゝ事が尠い譯てあります夫れ故に身體の健康を計るには先づ皮膚の健全を計らなければなりませぬそれには一體皮膚の作用は如何なるものてあるかを心得る必要があります是から

皮膚の構造と作用とを少しく說明し致しませう、

皮膚の構造

外皮は眞皮と表皮とから出來て居る表皮といふのは最も表面を被ふて居るものをいふのであります。眞皮といふのは表皮の下にある一つの層であつて彈力纖維と謂つて極めて丈夫な延び縮みの出來る纖維が澤山集つてそれに結締組織といふ組織が加はつて出來上つて居ります深い下の方の層に至ると結締組織が多くなつて此所には脂肪組織の澤山に這入つてある空間が多くある其下には皮下結締組織といふものがありますこれから眞皮の上の方の層には筋肉もある。

上皮層は眞皮の上を覆うて居りまして此れは幾層にも重なつた上皮細胞から出來上つて居ります此上皮細胞は絕へず垢となつて剝げ取れ下の層から常に新しい上皮細胞が製造されて常に新陳代謝をやつて居りますそれは上に申しました眞皮と表皮との間の層の所に、マルピキ氏粘膜綱といふ層があつて是れから絕へず新しい表皮細胞が出來て表面の方の表皮細胞の古いもの丶剝け取れたのを補つて行くのであります。

眞皮の中には神經と血管とが走つて居る事勿論であります然し上皮には無い。

爪と毛髮

それから皮膚には爪と毛とが發生して居る爪は同じく表皮細胞が角質に變化して出來たものでありまして爪を剝ぎ取るト其下には前に申し上げたマルピキ氏粘膜綱があつて其下は眞皮でありますつまり爪は表皮細胞から出來てあるものに外ならぬのであります爪は後から前方に向つて絕へず生長するものであります。

皮膚は到る所毛髮が生へて居る然しながら手指の尖端手掌面足蹠口唇等には毛は生へて居ないですけれ共其他の所には大抵毛がある此毛は皮膚の一部分が凹み込んで出來た細長い穴の中に植はつて居つて其穴の底には毛根といふものがあつて此所から毛が生

長するのでありますそれ故に毛はイクラ抜けても此毛根が破壊せられぬ限りは常に毛は新生して居るのです。

それから毛の傍には皮脂腺と謂つて脂を分泌する腺が毛の植はつてある穴に口を開いて居て常に毛を滑かに保つ役を務めて居ります此腺が無いと毛はボロボロになつて切れて了ひますけれ共、皮脂腺から絶へず脂の分泌がある爲めに毛に油を附ける事になり毛の滑澤を維持して行く譯であります。

それから皮膚には汗腺といつて汗を出す裝置がありますす此れは皮膚の下の方の部分にあつて管狀をなして皮膚の面に口を開いて居りますそれ故に汗の少しく出た時に注意して皮膚の面を見ますと小さな點狀をなしてポツポツ汗の小滴のあるが見えます此汗腺の數は實に莫大なものでクラウゼといふ人の言ふ所に依りますとザット二百五十萬に達するそうてすそれから其腺の汗を分泌する表面を總計すると一千八十平方米突に及ぶといふ事であります。

身體の外皮としての皮膚の役目

皮膚の下にある脂肪組織は如何なる用に立つものであるかといふに是れは身體の各部に存する凹み込んだ所を甘く塡めて凹沒をなくし飛び出た所を上から覆ひそうして人體に丸味を帶びさせる事として居ります丸で人體の各部を注意して見ると丸味を帶びて居るものであつて是れは生物——人間でも動物でも同じですナーに通有の特性であります此脂肪組織は彈力を持つて居るから外部から働く色々の壓力抔に對して人體を保護して行きますそれから貴重なる器關を包被して容易に外傷等に當らない樣に勉めて居る例へば腹窩だとか膝の後面とかを見るを誠に多量の脂肪組織がありますが玆には大切な血管や神經が走つて居つて而かも外傷を蒙むり易い所であるから澤山の脂肪が具へてあつて血管神經を保護して居るのでありますそれから脂肪組織は熱の傳導力が極めて尠いから身體の溫度が外に去るのを防ぎ常に身體を溫く保つて居ります其他皮膚眞皮表皮にも

同じ作用があります。

皮膚の眞皮は硬くて極めて彈力性に富み移動し易い性質を持つて居るから外部から働く色々の機械的の力に對して身體を保護しますその上に表皮は乾燥して居て角質となり血管も神經も持つて居りませぬから外から働く毒物に對しても抵抗して容易に內部の方に入るを許しませぬそれのみならず溫熱的或は化學的作用が働いて來ても中々頑强に抵抗する性質を具へて居ります皮脂腺からは脂を分泌し是れが薄く皮膚を掩ふて居りますから液體が働いても上皮が取れぬやう且つ空氣の分解作用を蒙むらぬやう保護して居るそれから皮膚の上皮細胞層は身體にある液——體液ですナ—調節に向つて有益な役目を營んで居りますなぜなれば此上皮細胞層は眞皮にある毛細血管に向つて一種の壓を及ぼして居りますから皮膚血管から多量の液が外部に向つて浸み出さぬやうにして居るのでありますそれ故に表皮の剝げた所は赤くなつて常に濕潤して居ります是れは血管をおさへて居た上皮層が無くなつたが爲めに血管が擴張して隨て血管から液が餘計に浸み出したからであります斯くの如くに皮膚の表面に濕潤する部分が廣くなりますと大切な蛋白質を失ふ事になりますから營養が惡しくなつて來るのであります。

皮膚の呼吸

人は肺臟から呼吸に依つて水炭酸抔を出しそうして酸素を吸ひ込む外に尙ほ皮膚も此呼吸作用を營むものであります二十四時間に皮膚呼吸の爲めに體重の六十七分の一を失ふ其大部分は水であつて他は主に炭酸であります斯くの如く皮膚呼吸の爲めに出て行く水炭酸の量は肺呼吸に依つて出て行く量と殆んど同じ位であります若しも周圍の溫度が高いとか筋肉の動作の活潑な時は炭酸の出る量は多くなります。皮膚は又酸素を吸收しますそれは排出した炭酸の量よりも少し尠いか或は同量位のものであります。今肺臟呼吸と皮膚呼吸とを比較しますと皮膚から出て行く炭酸の分量は肺から呼き出す量の二百二十分

の一に及びまして吸ひ込む酸素の量は肺へ吸ひ込む量の百八十分の一でありますそれ故に皮膚の呼吸力といふものは肺のそれと比べますと遙に尠いものと謂はなければなりませぬ皮膚の呼吸作用就中炭酸と水とを出す働きは食物消化の時とか皮膚に刺戟を與へた時とか或は肺の呼吸が妨げられた場合には高まつて來るものであります。

皮脂腺

前に申し上げた如く皮膚の毛のある所には皮脂腺といふものがあつて是れから絶へず脂肪を分泌して居つて此脂は毛髮に光澤を與へ且つ皮膚の乾燥を防ぐ働きのあるものであります。

汗

汗は何所から出るかといふに是れは前に御話した汗腺から分泌せらるるものであつて通常皮膚の表面に出ると直に蒸發して了ひますけれ共分泌が多くなつて來るか或は汗の蒸散するのが妨げられた時には汗は汗腺の開口から玉のやうになつて流れ出て來ます汗の最も多く分泌せられる所は手掌面足蹠顏胸部大腿前腕等であります汗の分泌は朝から段々と多くなり午後最も多くそれから夕方には少くなり又再び上つて夜中には極點に達しますもし四圍の空氣が濕つて居れば汗の出方は減少する攝氏十五度の溫度では汗の分泌は減じて最少量となる多量の食物を攝取した後は又汗の分泌は增加して來る衣服の厚衣をしたり勞働を強くやると固より多量の汗が分泌せられる。

皮膚には色の付いた部分があります例へば乳房を見ると着色が明瞭で他の部分と異なつてある是れは色素があるからであつて其色素は何所にあるかと云へば前に述べたマルピキ氏粘膜網の中にあるのであります一體皮膚に色の附くのは恐らく一種の化學作用に因るので日に燒けて色の黑くなるのは日光の爲め此作用が亢進するからでありましよう。

汗の分泌に及ぼす種々なる影響

皮膚から分泌せられる汗の全量は實に體重の六十四

液の一に過しかして下の肺臓から呼吸に依つて呼出する量の倍でありますが是れは色々な影響に依りて増加したり或は減少するものでありますそれから汗の出方は人に依つて決して一樣ではなくして通常の人よりも多量の汗を出して困る人もあり又は餘りうるさい程汗の出ない人もあります是れは人々の素質に依る事でありますが一般に申しますと周圍の溫度が高まると皮膚は赤くなりまして即ち血管が大きくなつて來ますから隨て汗の出が多くなります反對に非常な寒冷に逢ふとか或は五十度以上の溫度になりますると汗の分泌は止みますそれから溫い飲み物を多量に飲んで血液の水分が多くなりますと亦汗の分泌が増す次には心臓血管の動作が盛んになりまして皮膚の毛細血管内の血液の壓力が増した場合にも汗は多く出て來ます筋肉動作の盛んな時の發汗も此れと同じ理でありますそれから汗の分泌を増し又は減少する事の出來る藥は種々あります。

汗は「アルカリ」性の反應を呈し時として酸性の事もありますが汗は之を集めて見ますと無色で少しく溷濁し之を嘗めて見ると鹽味を帶び固有な臭氣を持つて居ります。

汗の大部分は水分でありまして此の外に種々なる化學成分を含んで居ります鹽分炭酸瓦斯抔を含有して居ります。

汗の分泌と神經の關係

それから汗の分泌には血管の神經と固有の汗の分泌を司る神經とが同時に働くのでありまして多くは血管を開大させる神經が働くのでありますが是れは血管が開大して皮膚が赤くなつた時汗の分泌の多いので分りますが併し心配抔をして皮膚は蒼白になつて居ても汗の出る事がありますが所謂冷汗ですナ是れは血管を收縮させる神經が働いて居る場合でありますから同時に汗分泌を司る神經が働くものであると説明する事が出來ます血液の循環がなくなつて居ても汗の分泌を神經の方から促す事が出來ます。

皮膚の吸收

皮膚を永く水の中に浸す時は上皮細胞は浸潤せられて膨脹しますけれ共水の中に溶けてある鹽分や毒物のやうな物は吸收する事は出來ませぬ是れは何故であるかといふに上皮細胞及皮膚の穴に脂肪が付いて居るからであります酒精「エーテル」「クロロホルム」のやうな藥劑は皮膚の脂肪を溶かす働きのあるものでありますから之を水に溶かして皮膚に働かせると多少吸收せられます然し石炭酸のやうな揮發性の物質は上皮を腐蝕せしむる作用を持つて居りますから無論吸收せられます世間では傷をした時に直に石炭酸で罨法抔をやつて其爲め腐蝕を蒙むり皮膚は黑色に變じ血行がなくなつて遂に其部分の組織が死んで了ふ事が多いのを見ます石炭酸の罨法は甚だ危險でありますから決して行ふてはなりませぬ。

皮膚の溫熱調節作用

皮膚は體溫の調節を司る極めて重要な役を務めて居ります人の血液は身體四圍の溫度よりも高いから絕へず體溫は外界に向つて放散して出て了ふ筈でありますけれ共皮膚は能く之を調節して體溫の外に出て行くのを防遏して居るのでありますその上上皮細胞層は熱の不傳導體であるから容易に內部の熱は外に傳導し去られる事の出來ない仕掛けになつて居ります。

それから寒冷に逢ふた時は皮膚は直に收縮して寒冷に對して抵抗する寒い時は皮膚に粟粒の如きもの丶出來るのは皮膚收縮の結果に外ならぬのでありますもしも此調節作用に障害が起つて寒冷に逢ふても收縮して抵抗もしない場合にはドンドン寒氣が作用して非常に體溫を奪はれ種々な病氣を起す事になりますツマリ皮膚は寒冷に當れば收縮し溫熱に逢へば弛緩するもので此調節が常に能く行はれ居れば宜しいのですけれ共少しでも障碍が起ると體溫の調節上大なる影響を受ける事になつて來ます。

沐浴した後に能く風を引く事のあるのは沐浴すると皮膚の血管が擴張して居りますから隨て體溫を外の方に出す事が多くなりまして多量の溫を失ふから玆

に溫熱の調節が狂つて來て遂に感冒に罹るのでありますそれ故に沐浴の後は體溫を失ひ易いのでありますから注意して外氣に當らない樣にしなければなりませぬ

それから寒冷が皮膚に烈しく永く働くとどうなるかと申しますと此時は皮膚の色は紫色を帶びた赤色に變ずるのは皆樣が冬の寒い時に鼻の先きや耳顏の色が赤くなつて紫色を帶びて居るのを御覽でしやう是れは何故であるかと申しますと寒冷の働きが一種の刺戟となつて皮膚に作用するから始めは無論血管は收縮するけれ共永く烈しい寒氣が働く爲め遂に今度は麻痺して血管は 收縮力を失ひ反對に擴張して來るそうすると皮膚に多量の血液が送られ且つ血管が擴張すると血の循行が妨げられ其部位に血液が停留しますから茲に紫赤色を呈するやうになつて來るのであります

上に申し上げた所を簡單に云ふて見ますと皮膚といふものは吾々の身體を包被して居るものであつて第一に體溫を調節して行く働きのある事第二に吾々の身體を外界から動く色々な器械的の働きに對して保護する事第三に特殊の分泌器關としての働き此三つの主要なる役目を務めて行くものであるから極めて重要なる身體器關の一であるといふ事に歸するのであります

それ故に吾々は平素飲食物の攝生を重んずるのと同樣に皮膚の攝養といふ事に確然とした考へを以て重きを措かなければなりませぬ

皮膚のつやの善いといふ事は人が美貌を保つ上にも極めて必要な事柄であります然し其皮膚を美に保つといふには外部から藥をつけたりヲシロイを塗つたりしたのでは容易に目的を達する事は出來ませぬイクラ艶の附く藥を付けても皮膚そのものゝ生理的狀況が佳良でなくては決して立派な皮膚にはなれませぬ即ち全身の血の 循環が佳良であれば自然と顏の色澤や全身のつやが立派になつて來ますから美になる源を能く心得て居る必要がありますそれで人工

的の美でなく身體そのもの丶美を發揮する事を勉めなければなりませぬ健全な身體を持つて居る人には健全な精神が宿つて居るのと同樣に健全な身體であれば自ら美麗な皮膚がある筈であります

それから吾々の皮膚が抵抗力が強くて頑丈であれば容易に外界の刺戟に感應しないから色々の病氣に罹らないやうになります即ち寒冷に逢へば直に收縮して寒さに抵抗し温い氣に當れば膨脹してそうしてウマク體溫の調節を司つて行く事が出來れば宜しいのですけれ共若しも此働きに故障を生じた場合には容易に風邪に冒され是に續いて種々の病を起し血行が惡しくなつて來て皮膚は益々其抵抗力を喪失する事になつて參ります

皮膚の攝養

上に申し述べましたやうに皮膚からは絕へず汗腺に依り汗及炭酸が出て酸素を吸ふ機能があつて極めて重要な機關でありますから吾々は常に皮膚を清潔に保ち呼吸口の閉塞しないやう注意しなくてはなりませぬ又皮脂腺からは絕へず脂が分泌せられて居りますからして永くうちやつて置くと表面に脂が溜り之れが分解して惡臭を放つやうになりますから極めて注意しなければなりませぬ併し我國は昔から沐浴といふ美風が廣く行はれて居る國でありますからして皮膚の清潔な事は能く行き屆いて居ります此習慣は極めて結構な風習でありますからして吾々は何所迄も之を維持しなくてはなりませぬ

沐浴の効は皮膚に附着して居る脂、汗等を除き氣孔の閉塞を防ぎ上皮を摩擦するが爲めに皮膚の血管に働いて血行を盛んにし新陳代謝の機能を高め兼て神經を興奮する効のあるものであります

皮膚を堅固にするには平素可成薄衣をする習慣を付けるのが肝要でありまして是れは小供の時から能く注意して掛らなくてはなりませぬ小供を餘りに大切にし過ぎて無暗に厚衣をさせたが爲め身體の虛弱を來する事は吾々の日常見る所であります

皮膚の働きを充分にするには皮膚の體操が必要であ

ります皮膚の體操といふのは皮膚を縮めたり伸ばしたりする方法を指すのであります是れは冷水摩擦法と冷水浴とであらうと思ひます
冷水摩擦は水を西洋手拭に浸して身體を拭ふ方法てあり冷水浴は冷水の中に入りて直ちに浴槽から出て乾燥した手拭て身體を摩擦するのてあります
先づ冷水が皮膚に當ると此刺戟て皮膚組織は固よりの事皮膚の血管が收縮する之に次て摩擦を行ふときは溫熱を發生しますからその爲めに收縮した血管なり組織なりは再び伸び弛むて來る是の方法を反覆して行ふと皮膚に伸縮みを練習させる事になりますから自ら皮膚の働きがよくなつて寒冷溫暖に對した時ウマク延び縮みが出來て體溫調節の作用が完全に行はれるやうになつて來るそれから神經を刺戟興奮し血行を盛にする効のあるのは勿論の事て全身の血液循環が佳良になり代謝機能が亢進し食慾が進み實に爽快を感じて來るのであると私は信じて居ります

以上皮膚に就いてザツト私の氣の付いた事ばかりを申し述べたに過ぎませぬ述べ方の前後重複したり說明の足ない所の多かつたり重要な事を落したり杯した事のあるのは不學の致す所で平に諒察を願ひたい次第であります

神經衰弱の話

東京醫科大學　ＡＢ生君

第一　神經衰弱とは何か

神經衰弱とは何かと云ふ事は隨分難かしい問題であります、他の病氣は皆其病氣の本體が明かてある、肺に炎症を起せば肺炎、腸に加多兒が起れば腸加多兒と云ふ樣に、チヤンと其名に應じて其病に相應した一定の病理解剖的の變化があるが、神經衰弱にはこれが無い、神經衰弱と云ふのだから神經の病氣ではあらうが何處の神經にも少しも變化は無い、解剖して見ても顯微鏡にかけても何等の變化を見出す事

は出來ない。かゝる種類の病氣は神經衰弱の外に尚有るので之を官能的神經病と稱し、「ヒステリー」の如きも亦其一つであります。扨それでは神經衰弱とは如何様な物を云ふのかと云ふと、普通世間で腦病と言はれて居るもので其輕症なのは多くは此神經衰弱であります、且つ又神經衰弱を打捨てゝ置けば眞個の腦病に成つて仕舞ふ事も往々ある事であります。之れを今少し詳しく言ひますと神經衰弱とは、其名の示すか如く神經の衰憊し疲勞したる狀態でありまして、勞れ易く成つたり、頭痛がしたり、不眠に陷つたり、眩暈が起つたり、注意力が減退したりする狀態を名づくるのであります、併し斯る事は皆普通の健康な人にも起る事であるから、病的のものとして神經衰弱と名づけ得るのと生理的に起るのとの區別は如何かと云ふに、病的の方は其度合が烈しく起つて來るばかりでなく、生理的に起つたものは大なる原因か無くば起らず、且つ起つても少し休養すれば直に回復するのであるが、病的のは微細なる原因からでも起るし又一度起れば俄に恢復し難きものであります。然らば神經衰弱は精神病とは如何に異なるかと云ふに精神病では智慧や理解が病的になつて判斷に誤りを來すが、神經衰弱には其様な事は無い。又「ヒステリー」との區別は如何かと云ふに、「ヒステリー」では運動知覺の麻痺、痙攣、攣縮等の如き生理的には見る事の出來ぬ症狀が起るが、神經衰弱には生理的に起り得べき症狀ばかりで、只烈しく來るに過ぎぬのであります。神經衰弱は如何なる人に多いかと云ふに、老人や小兒にはあまり見ない様であつて青年殊に男女の學生に多い、此病氣が神經衰弱と云ふ名を得て盛んに研究せらるゝ様に成たのは、近來學問が盛んになつて若い者が此病氣に罹る事が多くなつたと云ふ事も一の原因である、併し强ち青年學生に限らず一般の人も隨分之にかゝる、政治家が國家問題の爲に神經衰弱に罹つて連夜の不眠に陷たり、實業家が劇務の爲に神經衰弱に罹つた様な例は澤山ある、園田孝吉氏等は神經衰弱を起

して自家の職を辭して長い間海濱に去つて居られた事がある、兎に角世の中が複雜に成るに隨て、何れの階級の人も頭腦を使ふ事が多くなるから、神經衰弱にかゝる人も隨て多くなるかも知れない。それならば昔は此病氣は無かつたかと云ふと決して左樣では無い、只昔は醫術が進步して居なかつたから神經衰弱と云ふ名は無く種々な名を附して獨立の病氣に數へて居たのに相違ない、歴史上の人物等を仔細に觀察して見ると、あの人は必然あの時神經衰弱をやつて居たに相違ないと思はれる樣なことが澤山ある早ひ話が彼の世話物と稱する芝居や小說に出て來る女達がよく戀ひ病と云ふのをやる、之れ即ち一の神經衰弱である。世間でよく、昔の人は戀病ひをしたが今は其樣な人は無ひ、今の人はそれだけ薄情に成たのだと云ひますが、之れは必ずしも左樣でない、人情に古今の變りは無いから昔の人が病つて今の人は病はぬと云ふ理屈はない、只昔の人は戀病ひをやり、今の人は神經衰弱をやつて居るのである、昔の人は戀病ひをすれば直にチッと床につくから大層な病人の樣に見えるが、今の人は神經衰弱だと知れば、直に運動を始めたり、冷水摩擦をやつたりするから病人らしくなくて濟むのであります。

第二　神經衰弱の患者は如何に苦しむか

神經衰弱患者の訴ふる症狀は數へきれぬ程多樣であるが其主なる點を述べましやう。先づ之れを精神的と肉體的との二つに別け、

精神的の變化としては

(一)記憶の減退を來して書物を讀ても少しも覺ぬ、讀むと云ふばかりで頭には入らぬ、人の姓名を聞ても直に忘れる、易い文字を忘れたりする、加之よく間違へる、言ひ違へる、書き違へる。

(二)倦惰を來し易い、僅かな事をしても直にいやになる、休息をしても俄に恢復しない、漸く恢復しても又何か始めると直に倦きて來て、事を成すに元氣がなく面白くなく、何事をも成したく無く、考へる事もいやになつて考へても考へが纏らず、全く何事

にも不關焉で居るが遂にはチッとして居る事すらいやになり苦痛になる。

(三)過劇なる喜怒　つまらぬ事に感心して喜ぶかと思へは又甚しく怒りつぽくなる、他人の言ふ事成す事が癪に障つてたまらぬ、他人が皆自分一人を馬鹿にして居る樣な氣がする、他人が何か言ふ事が皆自分に反對する樣に思はれる。

(四)些事が氣に懸る　何でも無い事が氣になつて仕方がない、棚に載せてある物が落ちて來はせぬかと思ひ、幾度手を洗つても手に汚ない物がついて居る樣な氣がしたり、首筋から背の方に虫が入りはしないかと氣配つたり、人が何か話をして居れば自分の風評をして居るに相違ないと思つたり、手紙を書いて文言が失禮に當りはしないかと思はれて幾度となく讀み返したり、それを封じて後何か他の紙を封入しはしないか、又は宛名を忘れはしないかと思つてたまらなくなつて封を切て見たり、其封を郵便函に入れて十分下の方へ落ちたか否かを氣遣ひ、或は入れたと思つたが風の爲に其邊に落ちて居るのではあるまいかと思つて見廻したり、集配人が途中で自分の手紙だけ落しはしまいかと氣遣ひ、先方へ着いてから玄關に投入されたまゝ風に吹き去られはしないかと氣配ひ、先方の下女が受取つても主人に示す事を忘やしないかと氣配ふ、かくの如くにしてつくる處がない此樣な例は澤山に聞く處であります。

(五)注意力と決斷力が乏しくなる　常に心が一定して居ないで浮々して居るから深く物事に注意する事が出來ない、考が徒に散漫になつて取り留めがつかない、又甚だ思切りが惡くなり決斷が鈍くなる、一寸した事でも他人の判斷を乞ひ他人の助言によりて決する樣になる、終には自分で自分がわからない樣に思はれる。

自體上に來る苦痛は

頭痛、内部で痛む事も、表面的に痛む事もある、表面の痛む時には一寸觸れても痛む樣である、皮膚が知覺過敏に成つて居るからである、婦人は髮を結

ふ事も出來ない。又頭全體の痛む時と、部分的に痛む時と、神經の通る道に沿ふて痛む時とがある。

頭部の壓感　頭を何か物で壓されて居るやうで重く感ずる。此時に強く頭を壓せば却て樂になる。物を載せて居るか、鉢卷でもして居れば氣持がよい。之れは頭の筋肉の疲勞したる感じてあります。少し何か仕事をすれば直に此感じが起つて來る事がありま す、時に又頭部ばかりでなく肩や背や其他諸部の筋肉に此感じが起る事もある、肩が張ると云ふのは即ち之れてあります。時には又頭が非常に寒く或は熱く感ぜられる事もある、其爲めに夜分寢る時には必ず頭に何か冠らねば寐られぬ事がある。

五官に來る苦痛　は眼が多い、眼が勞れ易く、調節機能が障害され、羞明を來す。耳では耳鳴がしたり、又音響を聞きて甚だ不愉快に感ずる。何でもない音に非常に驚く。味官や嗅官には別段障害は無い。皮膚には麻痺は無いが知覺失常を來し、無暗に痒く感じたり、蟲が這ふ樣な氣がしたり、又坐ると直にしびれ易い。

疼痛頻々　所を定めずに筋肉や關節が痛み出す、殊に胸部の筋肉の痛みは屢々來る。時には脊椎の棘狀突起が甚だ痛む事がある、其他又色々心配して重き病氣に成て居りはせずやと思へば其箇所が痛む。自分で肺病では無いかと思ふと胸が痛み、胃病では無いかと思ふと腹が痛む。

反射作用　は甚だ高まつて居る。

身體の震戰　個々の筋肉が震へたり、眼瞼が震へたり、手を出せば指尖が震へ、舌を出せば舌頭が震へる。

眩暈　も多く見らる丶徴候で、俄に立ち上れば眩暈し、歩けば起り、書を讀めば起り、凝視れば起り、甚しきは寐返りしても起る程になる。

睡眠障害　も度々來るもので、寢付の惡いのが多い、床に入つて寢やうとしても寢られない、度々時計か聞ゆる、煩悶し始める、萬感襲ひ來つて眼は益々冴ると云ふ有樣てある、漸くにして寢たと思ふと直に

覺めて又寐られない、寐て居る間も決して熟寐をしない、夢ばかり澤山見る、其難儀になるとコロリ〳〵とねむくなる。それならば十分寢て置かうと思つて床をとるとまた寢られぬと云ふ有樣で實に苦痛である。難かしい試驗をうけた人達は皆多少の經驗の有る事で有りましやう。時には又晝となく夜となくねむくて〳〵、寢れば熟寢して何時迄も寐て居るやうな全く正反對の神經衰弱て有るが、多くの人は寐られない方である。

内臟諸器の障害　としては胃腸の運動及分泌作用に變化を來して、胃に不快の感を起し、曖氣を發し、嘔吐を催ふし、腹が張る等のことがある。

尿の量は多く成る、之れは神經衰弱の患者は興奮性の茶や珈琲を多く用ゐたり、又湯水を多く飲むからてもある、又量は多からずとも膀胱が過敏に成て居る爲に、少したまつても直に尿を催ふすから度々排尿せねばならぬ樣に成る。又行かねばならぬかと思ひ始めると直に行きたくなる。

生殖器にも變化を起して、遺精を來し、早漏となり、交接不能に陷る。

血液循行器にも障害を來し、顏面や頭部に充血し、手足は冷却する、之れは何事も無くても起り、又は何か仕事した後に來る。又心臟では動悸が高まり、脈膊は不規則に成る事がある。

神經衰弱患者の徵候は略上記の如くである。次に此病氣を起す原因や其治療法を述べましやう。

（未完）

活ける家（續）

醫學士　渡邊房吉君

（三）活ける家の壁

通常の家の壁は或は泥土を以て塗られ、或は板から張り詰められて、長い歲月風雨の變に曝らされては遂にだん〳〵朽ち果て丶其用を爲さない樣になるの

てあるが、人體と云ふ吾が活ける家の壁は

筋肉或は單に肉

と云ふ活きて活潑に働く所の者から出來て、一刻瞬時の間でも疲勞れば又すぐに補はるゝと云ふ裝置を有し、身體を取り圍んで全身の形を與へ、兼て體內の機關を護りて外傷の及ばぬやうにし、且つ種々の身體運動を營むところの者であります。筋肉には二種あつて一を隨意筋、他を不隨意筋と云ひます。

隨意筋

とは家の主人の思ひ通りに働く所の肉で、主に家の外壁を形づくり、力が強く屈强で、家を擔つて步行くには極めて適當して居ります、全身中に名の付く肉は無數あるが、先づ記憶に便なるためには骨の數の二倍即ち五百有餘と心得て差支へない。

肉の長短大小

にも種々あるが全身中最も長いのが縫匠の肉と云ふて、大腿の前面を上から下へ走りて膝のあたりへ着く者て、片脚を他の脚の上にのせるのは此肉の働きてあります。最も短いのが鐙の肉と云ひ耳の中に存在て、其長さが約一分五厘程であるが、若し之れが害されれば、耳の聽力が著しく惡くなるものであります、凡て筋肉は無數の細い絲から成り立つて居るもので、これを。

筋纖維

と云ひ、隨意筋の各纖維は橫に細微な線條がいくつと無く顯微鏡下で見られるので、不隨意筋を骨平筋と云ふのに反して橫斑筋と稱せられて居ります。筋肉の一端或は兩端は白色に光つて居る。

腱

と稱する者となり、或は丸く或は扁平く、筋肉を骨に取付ける役目をして居りますが。體中で最も大きな强ひ腱がアヒルス氏の腱と云つて下腿の腓腸の部分の筋肉を踵骨に取り付けて居るもので、踵の上下運動は主に此肉の收縮によつて起るものであります、アヒルスとは昔しギリシャの英雄の名であります。筋肉は丁度槓杆の作用をする樣に關節に取付い

て居るから、其筋肉の伸縮の度毎に手足身體の屈伸が出來るのであります。之を手に就て云へば腕を動かす筋肉は肘の關節を跨つて、一端は上膊に他端は前膊に其前と後ろとに着いてゐる、若し肘の前の肉が收縮すれば肘は曲り、後ろの肉が收縮すれば肘は伸る樣になるのであります。

此收縮性は筋肉の一大特徴て、此外尚ほ引伸ばさるれば又再び縮むと云ふ彈力性と、無理に引伸ばさずとも或度迄は張つて居ると云ふ緊張性と、或重い物を取り除けるに果して自分の力に適ふか否かを知ることの出來る感覺性とを持つて居ります。

太くて短い筋肉は重物を高く持上げるのに適し、細長い筋肉は之を遠くに致すのに良い、故に太くて短い肉へ長い腱が付いてるのは迅速活潑なる運動をするのに適して居ります。勿論馬や牛や鹿の樣に快速に走ることは人類の不能い所ではあるが、これには一時間に六十哩迄も走る器械を發明する主人が、活ける家の中に居るからサシテ心配するに及ばぬのであります。何事によらず凡て調和の破れては亂の初めとなる者であるが、

身體運動の多くは多數筋肉の調和と一致とによりて出來るものであります。例之ば直立の姿勢を取らうとするならば甲の筋肉は足の踝の所で脚を伸ばそうとし、乙は膝を曲げない樣にし、丙は腰を眞直ぐにし、丁は脊の屈曲のを防ぎ、戊は首を傾げない樣にすると云ふ具合に、全身の諸筋總がゝりて目的を達するものであります。家から壁を取り壞せば破れ家となり、身體から筋肉を取り去れば骸骨となる。

筋肉は實に身體に美形を與へるものてあります。筋肉の中には無數の血管が通つて居つて、血液の中の酸素と榮養分とを之に供給して居ります。筋肉が收縮すれば此酸素と榮養分とを變じて身體の熱度となすものて、體温全部の十中の八迄は之によりて造らるゝものてあります。彼の少しく熱

かあれば立ち居振舞が不活潑になり、身體を動かすのが厭になると云ふのは、筋肉を休めて此上熱を上げまいと云ふ自然の妙工であります。此點から云へば

筋肉は實に活ける家の暖爐

とも云ふべきであります。更に驚く可きは

筋肉は活ける家の音樂器でもある

と云ふことて、獨逸の學者の云ふ所によれば、筋肉は伸縮の度毎に一種の樂音を發し、實際之を聞くことが出來るとのことてあります。西洋の詩人は『夕の星は聲を合せて共に天工の美を歌ふ』と云ひましたが、我々人體の筋肉が若し樂器を奏するとしたらば、天上の星が歌ふと云ふのも強ち詩的に言ひ現はした迄とは云はれぬのてあります。次に

不隨意筋

は其力の點に於ては遙に隨意筋よりは弱ひが、其智識は之より優れ、其作用は完全にして且つ巧みて、活ける家の主人たるべき精神の命令が無くとも、旣に其用事を終へて晝夜の差別なく、一刻片時も休息せずに體內て働いて居ります。胃の中に來た食物を消化して不良の者を排泄し、心臟の中へ來た惡ひ血は餘所へやり良い血は身體の各部へ送り、肺臟をして空氣を呼吸させて惡ひ血を淸め、急に寒氣にあたれば皮膚を收縮させて所謂『身の毛の彌立つ』狀態となし全身の熱を失ふまいとするのも、凡て忠實勤勉なる不隨意筋の作用てあります。

堅牢なる家には鞏固なる骨柱と同時に、また確乎した壁がなければならぬ樣に、吾が活ける人體の家にも五百有餘の筋肉が何れ劣らぬ完全圓滿な良き發達をなさなければなりません。此壁が弱く打ち果てつべく見ゆる樣ては全身の健康さ加減も大方は推し測られるもので、實際上

完全なる健康は又完全なる筋肉の發達に俟つ

ものであります。全身の力量は筋肉の强弱によつて差異を生ずるものであるから、細い痩せた、肉の

發育の惡ひ者にはドーして其力を信任して重任を負はせることが出來やうか。肉の働き振りが惡ければ體溫を造ることも少くなる、從て火の乏しい機關車の樣に全身各部の機能も鈍くなつて、やがては病氣を醸す樣になります。然らば

筋肉を丈夫にし全身の健康を増進させるには何うしたらよいか

これには遠く妙藥を蓬萊に求むる迄の必要も無く、手近て簡單で、之より優つた者はなく、而かも貧富貴賤を論ぜず何人にも得られる所の方法があります。これが即ち身體の

日常運動

て、毎日怠らず一定時間運動して筋肉を働かすれば見る〻に肥へ太りて肉付きが良くなる者であります。試に長い病氣の床に臥した人を御覽なさい、手足軀幹を休めて居つたがため筋肉も疲れ細つて、之を自由に動かすことも出來ないてはありませぬか。又試みに數週の長き間兩手を縛つて身動きの自由にならぬ樣にして御覽なさい、之を解いてから後迄も、手の上け下げが出來ぬ樣になるものてはありませぬか。之に反して毎日鐵槌を使用て居る鍛冶匠の肉は鐵よりも硬いてはありませぬか。鋤き耕やし灌漑ひ收穫をする農夫の肉は如何に見事てはありませぬか。駈け迴り立ち働らく貧民の兒女は、人力車に乘り馬車を驅る貴人富者の兒女に比して、比較にならぬ程の屈强なる肉を持つてはありませぬか。健康なる小兒は絶へず手足を動かし睡眠時の外は寸時も靜かにしてゐることはないものてす。故に我々は常に心がけて運動をせなければなりませぬ、然かしながら

運動には又一定の通則

と云ふものがある、此通則を知らなければ却て身體の害になることがあります。

第一、に過度の運動をしてはならぬ

中庸を以て程度とする。度を過ごして疲れ果つる迄に至るのは、運動不足と同じく共に有害てありま

す。筋肉が血管から仰ぐ所の滋養分と、運動により て失ふ所の消耗量とが平行せなければならぬ。若し運動が其度を超へ消耗量も従て供給よりも多い時は、筋肉細胞は漸次衰滅して新に補はるゝ暇も無く、身體は甚しく疲れて恢復するに長き時間を要するものであります。すべて

運動の間には適宜の休息が必要である

此休息の間に筋肉細胞が疲勞を復し、滋養分中の使ひ盡しは殘物を餘所に送り、更に新なる滋養分を取込むのであります。

第二、に樂しんで筋肉を運動させ
なければならぬ

心内に鬱して思ひ絶へず面白くなくば、二六時中其手足を休めずとも決して健康の助けとならぬ。婦人にとりて大に筋肉の運動となるのは樂しき心と喜はしき思ひとを以て家事と家務とを勵むにある。箒をとりて塵を拂ひ、雜巾をしぼりて床を拭き、食器を洗ひ、食品を調理し、戸障子を開閉し、衣服を洗濯する等の如きは一として消化を助け、胸廓を擴げ、全身の肉を一様に運動させる者でないものは無い。之を耻づるは女子たるものゝ本分でなく、之を笑ふは女子たる者の德に缺いて居る。世の鰕茶式部とか云ふ連中が一方には健康を增進し、他方には家族一同を喜ばせる此家庭運動の味ひを知らずに、夢より夢に彷徨いて、徒に星と菫花に憧憬るゝのは、何たる不心得のことでありませう。

第三、運動は全身の筋肉一樣に亘
らねばならぬ

若し甲の肉のみを運動させて乙には構はぬとしたならば、甲の肉のみが強くなつて全身が不釣合になります。グラッドストンはロンドンの平坦なる市街を毎日往復してゐる馬は、田舍の山阪を上り下りする馬に比し、遙に短命であることを發見し左の如く云ひました、これ平坦なる道路を歩む馬は毎日一定た肉のみを働かせるから早く既に疲れ切つて仕舞ふのであると。

第四、筋肉を強壯にするには之に相當する食物を供給せなければならぬ

大麥、小麥、豆類、胡桃、野菜、果物、牛乳等は何れも良い筋肉の滋養になるもので、甘い果物中にある糖分は筋肉に至極良い強壯劑であります。然しながら如何に良い食物とは云へ無暗に食べて

その度を過ごしてはならぬ

若し大食の割合に筋肉の運動が伴はなければ、身體に脂肪が付いて筋肉の力を弱くするものであります。體重十三貫目あるべきものが脂肪のために十四貫目になつたとすれば、夜となく晝となく、此無益な一貫目を搬び歩かねばならぬので、從て全身が其勞力を分たねばなりません。取り別けて餘分に働かねばならぬ樣になるのが肺と心臟で、これがために呼吸が淺くて短かく、心臟は弱くて疲れ易くなります。故にかゝる脂肪家が一朝熱の高い傳染病に罹ると極めて危險なものであります。

日光は筋肉の健康には欠くべからざる要素で、世の中にありとあらゆる生物は此日光の恩惠に浴して其元氣勢力を得るものであるが、活ける家の壁をなす筋肉の細胞も亦其一つであります。日に燒けて色の黑くなるのを恐れて深く家の中にありては到底健全活潑なる筋肉をうることは出來ません。外氣と日光とのみに曝れて居る印度人の筋肉は嗚呼如何に能く發達して居るではありませんか最後に申述べたいのは

筋肉と神經との關係

で、長い間運動しても尚疲れないと云ふ人は神經筋肉共に強壯である證據で、精神興奮の著しい時には平素迚も出來べくも見へない仕事迄も能く仕遂げる事が出來るものであります。イザ火事と云ふ時に身動きのならなかつた病人迄が能く達者に逃げ終せ、箸の上げ下げ迄が重々しげな可弱い婦人が屈強な男子でも持てない樣な重荷を輕々と持ち出すことの出來るのは、畢竟は筋肉に行つて居る神經が非常に興奮するからであります。次に私は

精神作用が顔面の筋肉に及んで其精神通りの容貌が出來る換言すれば人の容貌に其内在する主人（精神）の面影を映して居る寫眞であると云ふことを、委しく述べて見たいのであるが、之は何れ他の事に讓らうと思ひます、



小兒の營養と母親

醫學士　河野衛君

前に申し述べた樣に小供を養育するのは是非共母親の乳を以てしなくてはならぬものでありまして小兒の營養品として母乳に優るものは決して無いのでありますからして世の中の母親たるものは必らず自己の乳で自分の兒を育てるといふ事を堅く覺悟しなければならぬのであります

然しながらどうしても母親の乳で以て兒に養育する事の出來ない場合には實に止むを得ず媼母の乳を用ふるの外仕方がありませぬ併しながら媼母の乳といふものは常に安全なものとは限りませぬから餘程注意しなければなりませぬ

媼母の病氣が時として哺乳兒に傳染する事がありま す是れは慥かであります其れ故に媼母を選むには精密に其健康の狀況を調査しなくてはなりませぬ然るに之を調べる事はそう簡單なものでは無いのでありますからして只だ一回位一寸醫師が診察した位では中々精確な判斷を下す事の出來無い場合が多いのでありますそれ故に媼母として適當な人物であるか完全に健康であるかを慥に定めるには往々數日數週の檢査を要する事は決して稀な事ではありませぬ

媼母の役目は乳兒に己れの乳を飲ませるのでありますけれ共單に夫れのみでは不充分であります即ち

健康である事は申すに及ばず立派な乳が澤山出るといふ事のみて決して滿足は出來ないのであります然らば吾々の望む所のものは外に何があるかと申しますとそれは人物の點であります何をするにも人物といふ事が大切でありまして世の中でいくら才能があつて働きの出來得る人でも人物が出來て居なくては到底駄目であるのと同じく媼母にして人物がよく無かつたら其資格は無いのであります即ち其家族と能く一致和合し性質が温良で哺乳兒を我が兒同樣に愛育する事の出來る者でなくてはなりませぬ此點に關しては言ふべき事が實に夥しいのでありますけれ共此位にして置きます

媼母の乳で小兒を養育する方法は前に母親の乳を飮ませる事に就て申し述べたのと同樣であります

媼母の食餌は平素慣れて居るものを取らせて差支無いのでありまして餘り嚴格に何を食つてはならぬとか何を食はなくてはならぬとか八ヶ間敷云ひ付けると却て食欲を減じ不利益の事が多いものでありますからして此邊は能く注意しなければなりませぬ又媼母の乳で小供が急に生長しない事があつてもチット忍耐して居らなくてはならぬ慣るゝに隨つて生長するやうになるものであります決して急いで媼母を換へる杯の事をするのは良くないのであります

人工營養

小兒營養品は母乳に優るものは無いのでありますけれ共前に述べたやうな萬止むを得ない場合には媼母の乳を用ひます媼母の乳を用ふる事の出來ない場合には詮方なく人工營養を行ふのであります人工營養の主なるものは牛乳　山羊乳驢馬乳馬乳等其他種々の品がありますけれ共茲では牛乳營養の事のみを申します

併しながら牛乳で小兒を養育するに就いては此の牛乳營養といふものは實に萬止むを得ざる場合にし特別の處置として行ふものであるといふ事を明確に承知して居なくてはなりませぬ單に母の乳が不足であるとか生長が遲れて居るとか太り方が惡いとかい

ふ場合に直に牛乳を用ふるといふ事は極めて悪い事でありま す元來牛乳は牛の子を養てる爲めに出來て居るものでありますからしてイクラ滋養成分を含んで居ても小兒は不適當である事は明かな話しでありますす世間では無暗に牛乳に重きを置き妄りに之を用ひて小兒の胃腸を害ひ重い病の源を造る實例は澤山にあります夫れ故に牛乳營養を行ふに付ては大に眞面目な考へを持つて掛らなければなりませぬ簡單に云へば牛乳で小兒を養てゝ行くといふ事は極めて困難な仕事であります

　何故に困難であるかと申しまするとまづ第一に牛乳と人乳とは其成分の上に相違がありますからして小兒に適當しないのと第二には牛の乳房から搾り取つた乳汁が小兒の口に入る迄には色々の器や色々の人の手に掛るのでありますからして其間に變敗したり或は不潔物が混じたりして種々の變化を起しますから特別の注意を要します母乳ならば乳房に小兒は直接に口を付けて吸ひますから何の危險も無いのでありますが牛乳營養の場合はそうは行かぬのであります

　それから牛乳營養に際して困難を感ずるのは善良なる牛乳を得る事であります殊に我國では牛乳の需用が西洋に較べますと遙に少いのでありますからして比較的値も高く良き牛乳を得る事は極めて困難であります

　小兒の營養に用ふる牛乳は極めて善良で新鮮なるものでなくてはなりませぬそうして善良なる牛乳といふのは健康な牛から取つたものを謂ふのであります人間の結核と同じ様な病が牛にもありますからしてそんな牛から取つた牛乳は極めて危險であります成程消毒を嚴重に行へば病菌は死んでしまいますけれ共其牛の身體には矢張一種の毒がありますから小兒の體に害を及ぼすのは明白であります

　牛乳と人乳とは其化學上の性質が全く違ふ事は前に申し述べた通りであります人乳は牛乳に比すると蛋白質の含量が少く脂肪も尠い又人乳には糖分が多

いけれ共牛乳には尠いのでありますそれ故に牛乳を人乳に近いものとするには蛋白を稀薄にして乳糖を増さなければなりませぬ、今試に人乳と牛乳と成分を比較しますと牛乳では蛋白が百分中に四分人乳では二分脂肪は牛乳三、五から四人乳では三、五分糖分は牛乳四分人乳では四、八分であります

それから人乳には乾酪素といふものがありまして凝固して軟い細片のものとなりまして是れは消化も宜しいものでありますけれ共牛乳のは今一層緻密に堅く凝固しますから消化も容易では無いのであります

斯くの如くに牛乳と人乳とは種々の點に於て大なる相違がありますからして牛乳を小兒に與へるには色々に之を變化させてそうして最も人乳に近いものとして與へなくてはならぬのであります即ち小兒の年齢性質 强弱 發育 消化力 の程度に應じて水を加へし稀釋して與へるのでありまして是れが極めて大切な事柄でありますが然るに此薄め方は中々困難であるから必らず專門の醫師の監督の下に行はなければなりませぬ此稀釋法を誤まると小兒の發育が不良となるばかりで無く重き胃腸の病を起して來る事が多い世間では此重要なる事柄に頓着せずして勝手に稀釋し甚しきに至つては純乳を用ふる者もあります誠に危險千萬と謂はねばなりませぬ然らば如何なる割合に薄むべきかと申すに大體の方則は先づ次のやうな割合に薄めます

生後三週の間は牛乳一に水（煮沸したる）三
一ヶ月から二ヶ月迄は牛乳一に水二
三ヶ月から五ヶ月迄は牛乳一水一
六ヶ月から七ヶ月迄は牛乳二水一

それから砂糖を四%の割合即ち乳一〇〇分に四分の糖を加へるのであります

右の表は固より大體の所を示したに過ぎませぬ小兒の營養狀態消化の模樣に依りて此れを種々に變化さして行くのでありますから常に此の通りに行つて行く譯には參りませぬ又乳の分析表丈けを見て考へ

ると上に述べた樣にすれば宜しいやうに考へられますけれ共實際はそう單純な譯に參りませぬ蛋白質が消化が惡しくて脂肪の尠いといふやうな事柄が加はつて來ましては小兒の消化力との關係が中々甘く行かないものでありますから牛乳營養といふ事は極めて困難な仕事であります

右に申した樣に薄めた乳は一回何程位を飲ませるかと申しますに是亦體質と消化力との具合を色々に變化しなければならぬのでありますから一定した事は申し難いですけれ共大略一ヶ月以下の小兒には四〇から八〇瓦を二三時間每に飲ませ後には一回一〇〇から二〇〇瓦位と漸次に增加するのであります

それから牛乳の消毒法是れが亦極めて重要であります是れには種々の方法がありまして例へば高熱殺菌法低熱殺菌法といふのがありますが是れは病院とかいふやうな諸般の設備の完全した所で無くては出來難い方法でありまして最も安全な方法でありますその次に煮沸法といふのがあります是れは最も簡單で實行し易い方法であつて通常ソスレット氏裝置を用ひます是れは後に申し上げる事と致しましよう

序に「コンデンスミルク」の事を一寸申しましよう是れは牛乳の水分を取り去つて之に白砂糖を加へて製したものでありまして極めて濃厚な牛乳に外ならぬのであります是れも往々使用せられまして牛乳の代りに能く用ひます是れは多量の水分を加へて稀釋したのを用ふるのであります初め「コンデンスミルク」一に水二三の割合に薄め段々濃くして用ひます日本製の品も數種ありますが信用の出來る品は極めて尠くてまだ舶來品に遠く及ばないのであります

以上申し上げた私の主旨は小兒を營養するには母乳に如くものは無いから可成母乳で育てる良習慣を失はない樣にし母たるものゝ天職を盡されん事を希望し止むを得ざる事情のある場合に限り媼乳を用ひ又母乳も媼乳も之を得る途のない時に牛乳を用ふる併しながら牛乳を用ふるといふ事には種々の困難が

ある危險がありますから餘程注意して掛り安に牛乳を用ふる事は極めて危險であるから慎重な態度を取らなければならぬといふ事に明確な觀念を懷かれむ事を希望するに過ぎないのであります



質疑

●問　明治三十年頃（年齡二十歲前後）下腹部に劇痛を覺へ手足に痙攣ありて一二週間苦しみ申候に付某大家に診察を請ひ候處某人の麻病より來せし子宮内膜炎と申され爾後治療のため一時に快方に向ひ其後毎年再發致したれども至て容易く全快致し三十七年夏突然再發し隨分苦痛劇しく遂に某醫院に入院七八月間治療致し全快の上清國へ參り候處依然年々一二回再發腹部の痛み劇しく且つ痙攣強く發熱せし事も有之大閉口致し又醫師は近傍に之無ため治療を受くるに由なく困難致し居り候就ては該病の根治的療法は無之者にや外科的治療は身體に危險なるや又は餘病を發し不申候哉右患者平素の養生法を何卒御教示下され度妾事三人の子供あり皆健全に御座候同病發生後は一切懷姙致さず世上妾と同樣の患者も多數と存ぜられ候間何卒然るべく御回答の程願上げ候

清國居留　東洋女史

●答　麻疾を患ひて居る男子が加療を怠つて癒りきらぬ中に結婚致まして罪のない最愛の妻君に傳染せしめ遂に病床に呻吟せしむると云ふことは世に中々多いので現今では婦人生殖器病の八十八%は殆んどこれが原因をなすことであります。婦人の生殖器は男子に比して極めて複雜に出來て居りますから從て病毒の傳播も劇しい、膣、尿道、子宮から喇叭管、卵巢と漸次進行致しまして甚しきは腹膜炎等を起すに至るものであります、又其結果と

して不妊症を起し一生愛兒を擧ぐることの出來ぬ樣になりますのは珍しくないことで吾人は斯る悲境の婦人に對しては誠に同情に堪えませんので御座います。治療法としては大體に於て藥餌療法と外科的療法との二つあるので之等は疾病の程度に依て醫士の斟酌して行ふものでありますから何れを取りてよろしいか又治療後の經過などの詳しいことに付きましては診察せざれば御答致かぬるのは甚だ遺憾とする次第で御座います專門醫にかゝりて適當の治療を加へたならば無論全治は期し得べきものと信じます要は唯時機を失せず完全の治療を受くると否とにあるのです素人の方が自ら治療すると云ふことは中々六ツヶ敷ことでありますが唯だ平素の攝生方の一般丈けを申ますと先づ第一に身體の營養に重きを置きまして病に對する抵抗力を强むると云ふことは凡ての病氣に最も必要とする處であります又溫泉に浴することも甚だよろしいことですが海水冷浴は却て良くありません、それから辛烈物、酒の類凡て刺戟性の食物は斷じて不可ません、過度の運動は固より良くありませぬが時々野外を遊歩し氣を散じると云ふとは健康を保つ上に於て欠くべからざる要素であります。局部に付きましてはなるべく無害の防腐劑例へば〇、五％リゾール水とか二、％の硼酸水の樣なものゝ微溫液を「イルリガートル」にて洗滌を行ひ清潔にすることが肝要であります兎に角醫療を仰ぐのが專一であります、又主人に慢性の痳疾がありとすれば云ふまでもなく是亦治療を爲さねばならんのです。

前號本欄所載のネッスレー氏ミルクフードは「ネッスレー氏小兒粉」及「メリング氏ミルクフード」の誤に付爰に是正す



雜報

○東京慈恵醫院總會

東京慈恵醫院總會は五月二十日午後三時より同院内に於て開かれたり　皇后陛下には豫て仰出されたる如く此日午後二時御出門高倉典侍御陪乘香川皇后宮太夫、山内亮、萩、小池權掌侍、平田權命婦供奉し君が代の奏樂中著御あらせられたるが同院役員及び看護婦等は門内に整列し幹事長有栖川宮妃慰子殿下を始め閑院宮妃智恵子、東伏見宮妃周子、山階宮妃常子、久邇宮妃俔子各殿下一條公爵夫人、近衛前公爵夫人、黒田大山両侯爵夫人外幹事は御車寄にて奉迎したり　陛下には洋裝にて御降車遊ばされ幹事長並に高木院長御先導にて便殿へ入御各殿下と御對顔あらせられたる後院長高木男爵　次長　實吉男爵及び幹事一同に謁を賜り御少憩あらせられたり同三時幹事長の奏請に依り　陛下には各宮妃殿下各供奉員扈從し總會式場に臨御あらせられしかば參會員は最敬禮を以て奉迎し高木院長は香川皇后宮太夫を經て「東京慈恵醫院第二十回報告書」を奉呈し同書中の要項「明治卅九年度施療部收支決算、明治卅九年度資金部收支決算、明治卅九年度施療患者數」に就き奏上したるが　陛下には之を聞食され畏くも

本日慈恵醫院總會に臨み各員を見て喜ぶ各員當院の擴張事業に盡力せらるゝを聞き喜ばしく存ず

と令旨を賜りたり仍て幹事長有栖川妃殿下には恭しく御前に進み

茲に慈恵醫院總會に當り　皇后陛下の親臨を辱ふし優渥なる令旨を賜ふ慰子等感激の至に堪へず將後益々奮勵慈善事業の完全を圖り以て令旨に副ひ奉らんことを誓て奉答す

と申上げ尚ほ同妃殿下より各名譽會員及び一般會員に對して御仁慈なる皇后陛下より患者費の内へ御手

許金より十萬圓の御下賜ありたる旨披露ありたる後高木院長は村上シゲ子外十四名の看護婦卒業生に證書を授與し右終るや幹事長の言上に依り　陛下には高木院長の御先導にて便殿に入御あらせられたり、承れば　陛下には御休憩中に高倉典侍、柏村侍醫を患者收容所に御差遣され九十餘名の患者に對して一々御仁慈深き御言葉を傳へられ特に患者中二名の兒童には種々なる翫具を下し賜はりし由午後四時三十分還御　仰出され君が代の奏樂中に參會者の奉送を受けさせられて芝離宮に御成あり同院關係者の參宮を許され賜饌ありたりと云ふ

○日本赤十字社總會

日本赤十字社にては去る五日日比谷公園に於て第十五回總會を擧行したるが會場は公園全部を以て之に充てられ各門には日章旗及赤十字旗を門頭高く交叉し周圍の鐵柵には一帶に紅白の幔幕を打廻し園内の此處彼處には數十の天幕を配置し宮殿造りの便殿玉座は勿論諸般の設備は全く整頓せられ幾百千旒の彩旗章旒は翻へり本社及支部の職員は昧爽より詰掛けて準備オサ／＼怠りなかりしが來賓及各社員は午前八時頃より前後して公園各門より入場し同十時を報ずるや來賓及本社職員支部長以下委員長以上及會計監事、商議員、協賛員、病院長以下主幹並有功章佩用者は式場右方に職員及特別社員は前面に一般社員は前面廣場と篤志看護婦人會職員及婦人社員は左方に夫々豫定の位置に整列し竢て　皇后陛下には豫て仰出されし如く午前十時御出門姉小路權典侍御陪乘にて香川大夫、山内亮、吉田、山川兩權掌侍生源寺權命婦以下供奉し御順路を公園正門より同十五分會場へ着御君が代の奏樂と共に御車寄にて閑院宮總裁殿下を始め松方、花房正副社長以下職員等の奉迎を受けさせられ直に松方社長御先導にて設けの便殿に入御御少憩の間御先着の總裁閑院宮同妃及有栖川宮妃山階宮妃久邇宮妃竹田宮各殿下と御對顏竢て松方社長以下各理事拜謁仰付られ此際松方社長より前年度の報告書其他の書類を捧呈し併せて同社の現況を

奏上し畢て　陛下には松方社長の御先導にて「君が代」奏樂中式場に臨御玉座に着かせらるゝや各宮殿下を始め供奉諸員及文武大官侍列の上松方社長より開會の旨を宣告し次て　皇后陛下には玉音朗かに左の令旨を賜はりたり

令　旨

本日赤十字社第十五回の總會に臨み親しく各員を見るを喜ふ尙將來本社の事業益大ならん事を望む

右に對し總裁殿下より恭しく左の通り奉答せられたり

茲に日本赤十字社第十五回總會を開くに當り畏くも
陛下の親臨を忝ふし優渥なる令旨を賜ふ本社の光榮何者か之に加へん惟ふに本社の事業逐年發達して今日の隆盛を見るに至りしは熱誠なる衆社員翊賛の致す所と雖抑も亦至仁至慈なる
陛下の庇護を蒙るに因らずんはあらず洵に感激に堪へざるなり尙將來益〻協同奮勉して以て懿旨に副ひ奉らむことを期す謹て奉答す

右にて社長松方伯より前年度の事務及會計報告をなし且つ常議員の補缺選擧を宣言したるに社長指名に決したるを以て直ちに外務省參事官安達峯一郞氏を指名し右にて無事總會を終り　陛下には最と御氣色麗はしく參會各員に忝くも御會釋を賜はりつゝ「君が代」奏樂中に御退場再び便殿に入御御少憩後總裁殿下を始め職員一同の奉送を受けさせられつゝ同十一時御車寄より御乘車諸員の供奉にて御滯りなく宮城へ還啓あらせらる、此日社員の來會申込みは約十一萬なりしが實際の參會者は男子四萬三千餘人女子二千六百餘人なりしよしにて其中重なるは閑院宮、山階宮、久邇宮、有栖川宮各妃殿下竹田宮殿下を始め奉り前記の人々の外に中島閑院宮御附武官、松平子爵、松平正直、加納子爵、花房次官、高木男爵等なりしとぞ

○大日本私立衛生會總會

私立衛生會第廿五回總會は去る五月廿六日午前九時

より溜池三會堂に於て開會、北里、三宅、山根、村井、金杉、杉山等諸氏百餘名出席、奏樂中に北里副會頭より開會の挨拶あり次に金杉醫學博士は前年中同會の成績並に會計の報告、役員改選の結果を報道し次に山根正次氏の「衛生上に關する法律に就いて」の講演三宅醫學博士の前年中内國衛生上の報告あり次に村井純之助氏は東京勸業博覽會に於ける衛生上の調査を報告し正午十二時休憩、午後一時より再開、原内務大臣の祝辭窪田衛生局長の祝辭坪井理學博士の「諸人種の衣服」稻垣醫學博士の「工業衛生に就て」木下臺灣總督府醫學校教授の「熱帶地方衛生視察談」栗本庸勝氏の「娼妓の健康診斷に就て」柴山醫學博士の「日本大博覽會に對する希望」等の講演あり終て北里副會頭閉會の辭を述べ右にて式を終り午後四時散會し直に紅葉館に於て懇親會を催せり

○船暈を防ぐ新法

近頃獨逸「ロイド」會社の汽船にて、アメリカとハムブルグとの間を往復する「パトリカ」號に、船暈を防ぐべき一新裝置を備へ付けられしが、その裝置は、一種の安樂椅子より成り、その椅子をば電氣の作用にて、震動せしむるやうに構造せるものなり（本誌冒頭の插圖を見るべし）

右の安樂椅子は甲板の上に備へあり、乘客をして之に腰をかけしむるものなるが、これに腰を掛くるときは丁度自動車に乘りたるときの如く、微弱の震動を連續して感覺し、これがために船體の動搖を感ぜず、隨て船暈を生ずることなしといふ

○小學校醫會

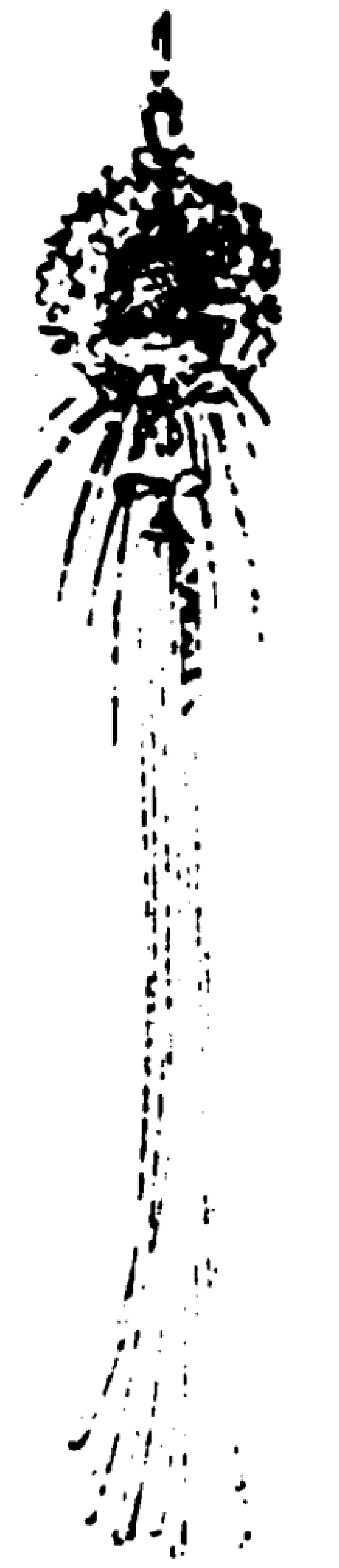
東京市の各小學校醫は去十一日午後零時三十分より東京市會議事堂に小學校醫會を開き豫に宿題として各自の研究に任せたる左の事項を問題として協議されしと

一、視察簿の樣式
一、學校傳染病豫防及消毒方法
一、學校清潔方法
一、兒童身體檢査結果の前後比較對照
一、兒童入學の際身體檢査
一、教員候補者の身體檢査
一、教員の身體檢査
一、學校建築及び校具の購入に關する衛生上の意見

○貧富と兒童の體格

貧富の懸隔が如何に兒童の體格と相關係するかにつき市内日本橋の久松小學校と淺草の玉姫小學校との生徒身體檢査成績表を比較するに左の如し

		男	女	計
日本橋久松小學校	强	一九九	一八七	三八六
	中	三二〇	三五三	六七三
	弱	三	四	七
淺草玉姬小學校	强	二	六	八
	中	五二	四五	九七
	弱	一五八	一三六	二九四



大日本婦人衛生會記事

○本會六月例會

本月一日（第一土曜日）午後二時より神田一ツ橋通り女子職業學校内に於て例會を開く、當日は豫て富士川ドクトルの講演ある筈なりしも俄に事故のため缺席せられしより先づ弘田博士は「歐米巡廻地見聞談」てふ題にて同博士が丁度渡米の際桑港の震災にに際會せられしより米國にては諸所に各慈善會の催ふしありて各婦人團は夫れ〳〵乳兒保護會及び育兒會とか貧見の救助等にて英米婦人連の凄ましく活動せし有様より又同國の牛乳取扱ひに關する事柄（此間種々寫眞圖の供覽あり）を詳細に講演せられたり、傍聽者約百餘名にて盛會なりしが同四時頃散會せり、當日出席の役員は左の如し

羽田三緒子　長谷川仲子　中澤芳子　石川貞子
濱尾作子　岡田德子　田村きよ子　鳩山春子
松平芳子　潮山とし子　小川孝子　岩下ゆか子
高木錦子　三浦教子の諸氏（出席順）

○山形支會總會

五月十一日午前十時より武德會山形支部に於て總會を開く來會者八十餘名にして副會長岩本夫人開會の辭を述べ次で會務の報告ありて役員の改選を行ひ、又來賓は高木檢事正、友田、佐々木兩講師の演説ありて總會の式を終り、之れより來賓一同を樓上に設けたる食堂に導き役員の手料理に成れる洋食の饗應ありし後、園遊會を開け餘興として蓄音器及び樂隊の奏樂又衛生材料の陳列等ありて紀念のため一同庭前にて撮影せらる、來賓には馬淵知事を始め岩本裁判所長佐柳事務官高木檢事正津田、江尻の兩師範學校長古閑醫學士遠山學士友田學士瀬川衛生技師新關市長近岡警部佐々木講師各新聞記者等にして頗る盛會なりしが各々歡を盡して散會せしは午後四時頃なりし

△當日の寄附者芳名

一金參圓　馬淵知事
一金壹圓五拾錢　高木檢事正
一金貳圓　古閑醫學士
一金貳圓　種田醫學士
一金壹圓五十錢　岩本所長
一金貳圓　佐柳事務官
一金貳圓　遠山醫學士
一金參圓　馬淵會長

一金貳圓　岩本副會長
一大判寫眞　友田醫學士
一金入圓　評議員及幹事一同
一甘酒　西野幹事

▲山形支會の役員

山形支會總會に於て役員の改選を行ひしに役員の當選は左の如し

會長	馬淵よし子
副會長	岩本しげ子
幹事	佐柳ちよ子
仝	岡井よしを子
仝	館つれ子
仝	佐藤たみ子
仝	西野きぬ子
仝	津田ゆき子
仝	友田ため子
評議員	中原きえ子
評議員	江尻しむ子
仝	高木こう子
仝	宍角みち子
仝	關根たか子
仝	紺野さだ子
仝	中村まつよ子
仝	長谷川ゆう子
仝	長谷川こと子
仝	三浦しげ子
仝	關原かめい子
仝	村井こと子
仝	稗田こはま子
仝	古閑こと子
仝	瀬川まき子
仝	遠山そめ子

○米澤支會總會

五月十二日(第二日曜日)午前九時より松岬館に於て總會を開く、先づ松山副會長の開會の辭あり、次で田代米澤日報社員の講話ありし後、中山評議員の會計報告等ありて式を終り、夫れより茶菓、辨當杯の饗應ありて午後より餘興に移りしが先づ「雷をとし」にて始まり會員一同かはる〲種々面白可笑しき「かくし藝」杯ありたり、當日は生憎の天氣にて風雨なるにも係はらず中々の盛會なりしが各々歡を盡して同四時頃散會されしと云ふ

○正誤　前號の本欄收支決算報告殘額の部に高崎支會の九十一圓五十錢の七字を脱せり依て茲に是正す

○本會入會者

○本郷、諏訪なみ子紹介
●埼玉縣北足立郡鳩ヶ谷町　通常會員　有住かね子
●埼玉縣北足立郡鳩ヶ谷町　通常會員　三田もと子
●埼玉縣北足立郡安行村字吉藏新田　通常會員　中山せい子

○神奈川、笹子かね子紹介
●神奈川縣中郡秦野町二七三七　通常會員　小清水淸子

○事務所申込
●京橋區弓町二十一朝報社內　通常會員　永安はつ子

○玉塚豐子紹介
●深川區安宅町七　通常會員　島田やえ子

○麻布、木部まつ子紹介
●芝公園二十一號三　通常會員　村田てつ子

○事務所申込
●北海道札幌區北三條東四丁目　通常會員　阿部恒子

○北海道、阿部恒子紹介
●京橋區宗十郎町十二　通常會員　古川きわ子

○赤坂、武富すみ子紹介
●麻布區霞町二十二　通常會員　江頭米子

○本郷、高倉つな子紹介
●四谷區元鮫ヶ橋南町八八　通常會員　樋口千代子

○本郷、諏訪なみ子紹介
●本所區緑町一ノ五十三蒔粂坍方　通常會員　小山くわ子

○本郷、佐藤操子紹介
●京橋區南金六町十三　特別會員　河野民子

○高崎支會入會者

○土谷特別賛成員紹介
●高崎市連雀町八十六　通常賛成員　木梠三四郎
●高崎市歌心町八　通常會員　小島げん子

○山形支會入會者

○友田幹事紹介
●　特別會員　江尻しむ子

○國井幹事紹介
●山形市　特別會員　新關たん子
●山形市　通常會員　奈良村きく子
●山形市　通常會員　佐藤なを子

○佐藤幹事紹介
●山形市　特別會員　吉野ふみ子

○米澤支會入會者

○中山評議員紹介
●甲　宮本ます子
●甲　山田やそ子
●甲　瀬原田なつ子
●甲　後藤こま子
●甲　白根澤よう子
●乙　佐藤いし子
●乙　登坂しら子
●乙　高橋すう子
●乙　遠藤みつ子
●乙　田中みやの子
●乙　清水田もん子

○堀千代子紹介
●甲　今井とよ子

○猪股氏紹介
●乙　小沼みよの子
●乙　水戸野よし子

○山田氏紹介
●　篠田はな子

○新潟支會入會者

○副會長關やゑ子紹介
●新潟市礎町　通常會員　廣橋たか子

○轉居

●水戸市上市南三ノ丸鐵道官舍八へ　松野かほる子
●牛込區辨天町四十へ　森敏子
●麴町區元園町一の六へ　戸塚てつ子
●本所區永倉町三十三へ　山梨識子
●呉市愛岩町八七へ　細川習子
●麻布區櫻田町五三へ　西崎幸子
●下谷區北稲荷町四八へ　小澤てつ子
●赤坂區氷川町四五へ　五十嵐つれ子
●札幌區北七、西七、一へ　柳橋とや子
●府下内藤番衆町三一へ　渡邊千賀子
●府下淀橋柏木三四二へ　菅野須賀子
●麴町區中六番町十八へ　鶴田誠子
●青山北町二ノ三十二へ　櫻田節彌子
●赤坂區赤坂臺町へ　福地衣子
●麻布區山元町五五佐野方へ　松本育子
●鳥取市栗谷町二五へ　千葉あや子

滋養新劑 グリコナール錠

本劑は醫學博士**北里柴三郎**氏指導の下に**佐伯矩**氏が牡蠣の滋養成分に就き研究の結果創製せるものなり本劑は滋養劑として病者及一般衰弱者に有効なるのみならず**心臟を強め盜汗を治し速かに體力を恢復**し元氣を旺盛ならしむる特異の効能ある事を多數の醫學者に證明せられたり……本劑の說明書は御申越に從ひ呈送す

消化新劑 タカヂアスターゼ

本劑は工學博士 藥學博士 **高峰讓吉**氏の發見に係る澱粉消化新藥なり
我醫學諸大家が治療上に於ける本劑の効果に就き發表せられたる實驗報告を集載せる**說明書**は御希望に依り無代郵送す
本劑は粉末及錠劑各大小容器入として各地藥舖に販賣す**類似品**あり必ず高峰氏タカヂアスターゼと御指定を乞ふ

發賣元 東京市日本橋區南茅場町 **三共商店藥品部**

私立大日本婦人衛生會 茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可らず之を望んとするには必すや衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。　されば吾人は現今東京に於る該本部に陳じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。　但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす。　終身會員は一時に廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三十錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むるを●男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之を贊成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。（死亡等は親戚知人より通知せらるべし）●本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演説又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得（此際出席の衣服は總て質素たるべし）●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●茲に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會 高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條　當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條　當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條　會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條　總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三ヶ月分以上宛前納すべし●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條　特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所　高崎市寄合町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衛生會 米澤支會規則

第一條　當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を増進するにあり

第二條　支會事務所は當時假に免許町一三六九番地 猪股方に置く

第三條　當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く 其任期は各一年とす

第四條　毎月一回（第二日曜午後一時より四時迄）講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條　入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ 事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に届出へし

但し已納の會費は返附せず

第六條　當支會の會費は左の三種として 特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條　會費は雜誌料として本會へ納め 一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條　會員及員外篤志者より金品の寄附あるときは 役員協議の上特待員又は賛成員となすへし

第九條　講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條　支會々員は質素を旨とし 集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條　特に支會則に掲げさるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

明治四十年六月十六日印刷
明治四十年六月二十日發行
婦人衛生雑誌第二百十二號
（毎月一回二十日發行）

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章
第一號　メッキ製拾貮錢、送費六錢

●第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號
七拾錢（黒塗箱入　送費九錢）
六拾錢（桐箱入　送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雑誌の配達か兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雑誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雑誌進呈

本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會
編輯兼發行者　東京市下谷區竹町五番地　齋藤清之丞
印刷者　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　飯田三千太郎
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場